

26001

①人間福祉現場実習指導Ⅰ

S

鈴木壽恵 上續宏道 大西敏浩 広瀬香織 上田早記子

人間福祉現場実習指導Ⅰ

⑩人間福祉現場実習指導Ⅰ

〔概要〕 この授業は専門職（社会福祉士・保育士等）実習を履修するための前提であり、効果的に学外現場実習を実施するために、児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉施設の「見学実習」と、事前・事後指導を行う。

〔到達目標〕 福祉施設での見学体験学習を通して、福祉施設への関心を高め、その現状についての理解を深め、現場実習に必要な基礎知識と基本姿勢を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1 オリエンテーション（授業のルール説明）レポート「志望動機と将来への希望」提出 | 高齢者福祉施設 |
| 2 個人面談（年間継続で実施）・個人マナーチェックの実施および書類作成準備、写真撮影説明など | 9 見学実習（児童福祉施設 障害者福祉施設 高齢者福祉施設） |
| 3 ビデオによる学習（高齢者）グループ討議と感想（個別提出） | 10 基本カードの記入および実習後の自己評価について |
| 4 休暇中の課題（援助を体験する）の振り返り | 11 実習を省みてグループ討議①児童福祉施設について |
| 5 ビデオによる学習（障害者）およびグループ討議 | 12 実習を省みてグループ討議②障害者福祉施設について |
| 6 ビデオによる学習（児童）およびグループ討議 | 13 実習を省みてグループ討議③高齢者福祉施設について |
| 7 見学実習（児童福祉施設 障害者福祉施設 高齢者福祉施設） | 14 実習レポートの相互評価 |
| 8 見学実習（児童福祉施設 障害者福祉施設 | 15 夏季休暇中の課題表示（夏季学期で学んだこと） |

〔テキスト〕 河村匡由、『福祉の仕事ガイドブック』、中央法規

〔参考文献〕 福祉小六法 2009年版、保育福祉小六法 2009年版（株みらい）

〔授業形態〕 講義・演習・実習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート及び提出物 60%、受講態度 40%

26002

①人間福祉現場実習指導Ⅱ

W

鈴木壽恵 上續宏道 大西敏浩 広瀬香織 上田早記子

人間福祉現場実習指導Ⅱ

⑩人間福祉現場実習指導Ⅱ

〔概要〕 この授業は専門職（社会福祉士・保育士等）実習を履修する為の前提で、効果的に学外実習を実施するための前提となる。福祉サービスを提供する各種相談所等の見学実習と、その事前事後指導を行う。

〔到達目標〕 各種相談所等の見学実習を通して、相談機関への関心を高め、その現状についての理解を深める。又、学外実習に必要とされる基礎知識と基本姿勢を習得する。

〔授業計画〕

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------------------|
| 1 オリエンテーション | 6 見学実習② | 12 グループ別個別指導① |
| 2 見学実習①にむけて事前学習 | 7 見学実習体験交流 | 13 グループ別個別指導② |
| 3 見学実習① | 8 見学実習③にむけて事前学習 | 14 グループ別個別指導③ |
| 4 見学実習体験交流 | 9 見学実習③ | 15 休暇中の課題提示、まとめ備考 個別面談通年で実施 |
| 5 見学実習②にむけて事前学習 | 10 見学実習体験交流 | |
| | 11 実習ノート提出・事後指導 | |

〔テキスト〕 河村匡由、『福祉の仕事ガイドブック』、中央法規

〔参考文献〕 福祉小六法編集委員会編 『福祉小六法』又は『保育福祉小六法』（株みらい）

〔授業形態〕 講義・演習・実習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート及び提出物 60%、受講態度 40%

26003

㊸人間福祉講読演習 I

S 安部行照 名和月之助

〔概要〕 社会福祉に関する英語文献を講読し、社会福祉の歴史的な実践と理論の変遷を辿り、社会福祉がいかにそれぞれの時代や地域に歴史的に関わって来たかを学ぶ。方法としては単に文脈を辿るだけでなく、小グループに分かれてテキストが提起している課題を各方面から探求し、研究の基礎的な力をつけることをめざす。

〔到達目標〕 主に英語文献の講読演習を通して、社会福祉の基礎的知識と専門用語を修得し、卒業論文作成の基盤を固めることを目標とする。

〔授業計画〕

1 全体オリエンテーション	6 文献講読②	11 文献講読④
2 文献講読①	7 演習②	12 文献講読④
3 文献講読①	8 文献講読③	13 演習④
4 演習（討論・発表など）①	9 文献講読③	14 全体まとめ
5 文献講読②	10 演習③	

〔テキスト〕 清水雅子著 『英語で学ぶヒューマンライフ』（講談社）

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート（50%）、平常の成績（50%）

26003

㊸人間福祉講読演習（編入生）

S 名和月之介

〔授業題目〕 社会福祉を英語文献を通して学ぶ

〔概要〕 社会福祉に関する英語文献を講読し、社会福祉の歴史的な実践と理論の変遷を辿り、社会福祉がいかにそれぞれの時代や地域に歴史的に関わって来たかを学ぶ。方法としては単に文脈を辿るだけでなく、小グループに分かれてテキストが提起している課題を各方面から探求し、研究の基礎的な力をつけることをめざす。

〔到達目標〕 主に英語文献の講読演習を通して、社会福祉の基礎的知識と専門用語を修得し、卒業論文作成の基盤を固めることを目標とする。

〔授業計画〕

1 全体オリエンテーション	6 文献講読②	11 文献講読④
2 文献講読①	7 演習②	12 文献講読④
3 文献講読①	8 文献講読③	13 演習④
4 演習（討論・発表など）①	9 文献講読③	14 全体まとめ
5 文献講読②	10 演習③	

〔テキスト〕 清水雅子著 『英語で学ぶヒューマンライフ』（講談社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験に替わるレポート（50%）、平常の成績（50%）

26004

㊸人間福祉演習 I（編入生）

S 鈴木壽恵 安部行照 奥野孝昭

㊸人間福祉演習 I

〔授業題目〕 人間福祉に関する課題の探究

〔概要〕 人間福祉（保育・福祉）に関する諸問題について学習を進め、学生自らが課題を設定し、発表・検討することで、自らの研究の方向性を見出すための知識と方法を習得する。

〔到達目標〕 人間福祉学についての理解を深めるとともに自らの研究課題と方向性を見出すための知識と方法を理解する。

〔授業計画〕

1 オリエンテーション（ゼミ学習の意義）	9 発表・グループ討議等
2 学習の達成目標および方向づけ	10 発表・グループ討議等
3 発表・グループ討議等	11 発表・グループ討議等
4 発表・グループ討議等	12 発表・グループ討議等
5 発表・グループ討議等	13 発表・グループ討議等
6 発表・グループ討議等	14 発表・グループ討議等
7 発表・グループ討議等	15 評価とまとめ
8 発表・グループ討議等	

〔テキスト〕

〔参考文献〕 適宜授業時に紹介する。プリント資料等使用。

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート・発表 50%、平常点・自己評価 50%

26005

①人間福祉演習Ⅱ（編入生）

W 鈴木壽恵 安部行照 奥野孝昭

②人間福祉演習Ⅱ

〔授業題目〕個別研究課題の計画書作成をめざして

〔概要〕人間福祉にかかわる諸問題について演習形式により学習を進め、学生自らが設けた課題の研究結果を発表・検討することで、自らの研究課題を明確にするための知識と方法を習得する。

〔到達目標〕各学生が研究課題を明確にし、文献検索・研究計画の策定・研究手順等の知識や方法を理解する。

〔授業計画〕

1 研究課題設定の方向性	7 発表・グループ討議等	13 発表・グループ討論・指導等
2 研究手順等の理解	8 個別指導・グループ討論等	
3 発表・グループ討議等	9 個別指導・グループ討論等	14 発表・グループ討論・指導等
4 発表・グループ討議等	10 個別指導・グループ討論等	
5 発表・グループ討議等	11 個別指導・グループ討論等	15 相互評価とまとめ
6 発表・グループ討議等	12 個別指導・グループ討論等	

〔テキスト〕

〔参考文献〕適宜授業時に紹介する。プリント資料等使用。

〔授業形態〕講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕レポート・発表50%、平常点・自己評価50%

26008

①現代社会と福祉Ⅰ

S 近藤祐昭

〔授業題目〕社会福祉の意義と役割

〔概要〕現代社会における社会福祉制度の意義や理念と福祉原理の理解および福祉制度の発達について理解を深める。さらに、社会福祉の構造的把握を前提として、社会福祉の対象や社会福祉サービス体系と法制度、専門性と倫理について論じ、福祉政策とその課題を考える。

〔到達目標〕人間生活の中で、社会福祉が果たす役割と意義について理解を深める。

〔授業計画〕

1 オリエンテーション	10 社会福祉の原理をめぐる理論と哲学（社会福祉と人権）
2 社会福祉の仕事	11 社会福祉の原理をめぐる理論と哲学（自立と自己実現）
3 現代社会における福祉ニーズ（高齢者）	12 社会福祉の原理をめぐる理論と哲学（ノーマライゼーション）
4 同上	13 社会福祉の歴史
5 現代社会における福祉ニーズ（子ども）	14 同上
6 同上	15 定期試験、まとめ
7 現代社会における福祉ニーズ（障害者）	
8 現代社会における福祉ニーズ（貧困）	
9 社会福祉政策の課題	

〔テキスト〕『新版・社会福祉学双書』編集委員会編、社会福祉概論、全国社会福祉協議会出版部

〔参考文献〕適宜プリントを配布する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験80%、平常点20%

26009

①現代社会と福祉Ⅱ

W 近藤祐昭

〔授業題目〕社会福祉の意義と役割

〔概要〕現代社会における社会福祉制度の意義や理念と福祉原理の理解および福祉制度の発達について理解を深める。さらに、社会福祉の構造的把握を前提として、社会福祉の対象や社会福祉サービス体系と法制度、専門性と倫理について論じ、福祉政策とその課題を考える。

〔到達目標〕人間生活の中で、社会福祉が果たす役割と意義について理解を深める。

〔授業計画〕

1 はじめに	9 社会福祉の財政と費用負担
2 社会福祉運営の原理と枠組み	10 社会福祉援助活動の担い手
3 社会福祉運営のシステム	11 社会福祉の資格制度
4 社会福祉援助活動の意義	12 社会福祉の専門性と倫理
5 社会福祉援助活動の方法	13 社会福祉と関連政策
6 社会福祉関係法の構造	14 社会福祉の国際動向
7 社会福祉行政の組織と運営	15 定期試験、まとめ
8 民間社会福祉サービスの組織と運営	

〔テキスト〕『新版・社会福祉学双書』編集委員会編、社会福祉概論、全国社会福祉協議会出版部

〔参考文献〕適宜プリントを配布する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験80%、平常点20%

26010

養護原理Ⅱ

W 安部行照

⑩養護原理Ⅱ

〔概要〕 養護原理Ⅰで学んだ理論や体験した実践を基礎として、さらに養護を社会的養護の場面で実際にどのように展開したらよいかを考察する。

〔到達目標〕 社会的看護の基礎としての施設内処遇の発展的なあり方についての理解を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 支援の必要な家庭と社会的養護 | 9 措置制度と利用契約制度 |
| 2 家庭の調整と支援 | 10 施設の運営 |
| 3 施設と児童相談所 | 11 児童福祉施設最低基準 |
| 4 施設における入退所と児童相談所 | 12 第三者評価事業 |
| 5 施設とその他の関係機関 | 13 苦情解決 |
| 6 施設と地域社会との交流 | 14 援助者の資質と倫理 |
| 7 里親制度の現状 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 里親を取り巻く諸問題 | |

〔テキスト〕 伊達悦子他編、『保育士をめざす人の養護原理』、(株)みらい

〔参考文献〕 適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点 20 %

26010

⑪福祉行財政と福祉計画

S 玉置好徳

〔授業題目〕 福祉行財政と福祉計画の実際

〔概要〕 福祉行財政の概要をふまえたうえで福祉計画の意義などについて考える。

〔到達目標〕 福祉行財政と福祉計画の要点について説明できるようになる。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 福祉行政の実施体制①（国の役割と地方との関係） | 8 福祉計画の意義と目的②（福祉行財政と福祉計画の関係） |
| 2 福祉行政の実施体制②（都道府県と市町村の役割） | 9 福祉計画の意義と目的③（福祉計画の主体） |
| 3 福祉行政の実施体制③（福祉の財源） | 10 福祉計画の主体と方法①（福祉計画の種類） |
| 4 福祉行政の実施体制④（福祉行政の組織及び団体の役割） | 11 福祉計画の主体と方法②（福祉計画の策定過程） |
| 5 福祉行政の実施体制⑤（福祉行政における専門職の役割） | 12 福祉計画の主体と方法③（福祉計画の策定方法と留意点） |
| 6 福祉行政の動向 | 13 福祉計画の主体と方法④（福祉計画の評価方法） |
| 7 福祉計画の意義と目的①（福祉計画の目的と住民参加の意義） | 14 福祉計画の実際 |
| | 15 試験とまとめ |

〔テキスト〕 河幹夫・小林良二・和気康太編『福祉行財政と福祉計画』（中央法規）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 % + 平常点 30 %

26021

⑫社会保障Ⅰ（編入生）

S 和田謙一郎

〔授業題目〕 わが国の社会保障制度の全体像

〔概要〕 社会保障の全体像を明らかにするために、その概念、対象、歴史と発達過程、理論、行財政制度、他の諸制度との関係を論じ、検討していく。さらに、わが国の社会保障制度の体系・概要を把握していく。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 社会保障の全体像、その概念、対象、歴史と発達過程、理論、行財政制度、他の諸制度との関係、わが国の社会保障制度の体系・概要が理解できている。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 現代社会と社会保障、そこでの課題 | 9 公的年金保険の概要 |
| 2 第二次大戦まで | 10 医療保険の概要 |
| 3 戦後から現在 | 11 介護保険の概要 |
| 4 戦前（以下、わが国） | 12 雇用・労災保険の概要 |
| 5 戦後から高度成長期 | 13 公的扶助、社会扶助、家族手当の概要 |
| 6 高度成長期以後 | 14 その他の関連制度について |
| 7 少子高齢社会における社会保障の財源と費用 | 15 定期試験 |
| 8 社会保障の体系 | |

〔テキスト〕 社会保障の手引（最新版）中央法規

〔参考文献〕 参考文献は講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔[単位認定の方法及び基準]（試験やレポートの評価基準など）〕 定期試験 80 %、平常の成績 20 %

26022

②社会保険Ⅱ（編入生）

W 和田謙一郎

〔授業題目〕社会保険制度の具体的内容

〔概要〕公的年金や医療保険等を中心にわが国の社会保険制度を把握していく。加えて、民間保険と公的施策との関係についても検討し、さらには諸外国における社会保険制度の概要の把握にも努める。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕公的年金や医療保険等を中心としたわが国の社会保険制度、民間保険と公的施策との関係、諸外国における社会保険制度の概要が理解できている。

〔授業計画〕

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| 1 老齢年金制度（国民・厚生） | 7 国民健康保険制度 | 12 公的施策と民間保険Ⅱ |
| 2 障害年金制度（国民・厚生） | 8 後期高齢者医療保険制度 | 13 諸外国の社会保険制度Ⅰ |
| 3 遺族年金制度（国民・厚生） | 9 介護保険制度 | 14 諸外国の社会保険制度Ⅱ |
| 4 各種共済組合の年金 | 10 社会保険の実施体制と専門 | 15 定期試験 |
| 5 医療保険制度（被用者）Ⅰ | 職 | |
| 6 医療保険制度（被用者）Ⅱ | 11 公的施策と民間保険Ⅰ | |

〔テキスト〕社会保険の手引（最新版）中央法規

〔参考文献〕参考文献は講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔〔単位認定の方法及び基準〕（試験やレポートの評価基準など）〕定期試験 80 %、平常の成績 20 %

26023

②公的扶助

S 和田謙一郎

〔授業題目〕最低限度の生活保障と自立支援

〔授業全体の内容の概要〕日本国憲法第 25 条で国民に保障されている「健康で文化的な最低限度の生活」を保障する目的と現実について時代背景を念頭に置き検討し、生存権を具体化した法令、とりわけセーフティネットとされている生活保護法（生活保護制度）を中心に、その解釈と運用を理解していく。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕現代社会における低所得者層の生活実態、生活保護制度のその周辺にある諸制度、自立支援プログラムの意義とその実際を理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1 はじめに | 実際 |
| 2 低所得者層の生活実態 | 9 生活保護制度における専門職の役割と実際 |
| 3 低所得者層を取り巻く社会情勢、福祉需要と実際 | 10 生活保護制度における多職種連携、ネットワークと実際 |
| 4 生活保護制度の目的 | 11 福祉事務所の役割と実際 |
| 5 生活保護制度における 3 原理 | 12 自立支援プログラムの意義と実際 |
| 6 生活保護制度における 4 原理 | 13 低所得者対策と住宅政策 |
| 7 生活保護制度における 8 原理 | 14 ホームレス対策 |
| 8 生活保護制度における組織及び団体の役割と | 15 定期試験 |

〔テキスト〕小林迪夫編著『公的扶助論（最新版）』（建帛社）

〔参考文献〕生活保護手帳（中央法規、最新版）

〔授業形態〕講義

〔〔単位認定の方法及び基準〕（試験やレポートの評価基準など）〕定期試験 80 %、平常の成績 20 %

26024

①地域福祉Ⅰ（編入生）

S

玉置好徳

〔授業題目〕 地域福祉の基本を理解する

〔概要〕 地域福祉に関する理念の理解を基盤として、地域住民を主体とした地域福祉の展開における各種社会資源の役割や機能を学ぶ。また、地域福祉の現状の理解をした上で、地域福祉計画の策定プロセスと地域福祉推進の実際を学ぶ。

〔到達目標〕 地域福祉に関する理念が地域福祉の発展過程を通して具体的内容として理解できること。そこでの地域住民、各種団体、専門機関の役割や公私協働について理解できること。地域福祉計画の意義・内容とともに、地域福祉の現状や今後の推進方法が理解できること。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 地域福祉の定義、概念、地域福祉の範囲 | 福祉教育）および財源（構成と調達） |
| 2 地域福祉の理念（人権尊重、権利擁護、社会的包摂、自立支援、地域生活支援、地域移行など）と地域福祉の役割、意義 | 10 地域福祉における社会福祉協議会の組織・機能役割、および地域福祉における行政機関（市町村）の役割・機能 |
| 3 地域における実践事例や地域福祉の現状から学ぶ現代社会におけるコミュニティと地域福祉 | 11 地域における社会資源の実際（サービス提供組織とその運営方法：社会福祉法人、NPO法人） |
| 4 地域福祉理念の発達および地域福祉の発展過程、歴史的展開 | 12 地域における社会資源の実際（サービス提供組織とその運営方法：民生委員・児童委員・ボランティア組織、その他の住民主体の組織） |
| 5 地域福祉の構成と地域福祉推進の基本的な考え方 | 13 地域における社会資源の実際（専門職や地域住民の役割の実際：社会福祉士、社協の地域福祉活動専門員、介護相談員、認知症サポーターなど） |
| 6 地域福祉推進における住民参加の意義（地域福祉の中での主体と対象とその現代的意義） | 14 地域福祉（推進）における行政機関、民間機関、専門職、地域住民の関係性（公私協働）と連携のあり方 |
| 7 地域福祉推進における専門職や専門機関の役割・機能とその実際（社会福祉法の内容を含む） | 15 まとめ（地域福祉の現状と課題）と定期試験 |
| 8 地域福祉計画の意義と内容（策定から実施まで） | |
| 9 地域福祉推進のための人材（構成と動員、福祉教育） | |

〔テキスト〕 市川一宏・上野谷加代子・大橋謙策編『地域福祉の理論と方法』（中央法規）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験（70%）、小レポート（10%）、平常点（受講態度等）（20%）

26025

①地域福祉Ⅱ（編入生）

W

玉置好徳

〔授業題目〕 地域福祉の推進方法を学ぶ

〔概要〕 地域福祉におけるネットワーク（多職種・多機関の連携を含む）の意義と方法およびその実際について学ぶ。地域福祉の推進方法について、地域活動事例を通して具体的に学ぶ。

〔到達目標〕 地域福祉に資する地域住民・多職種・多機関のネットワークの意義と方法が具体的に理解できる。地域福祉の推進方法としての社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービス評価方法などが具体的に理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1 地域福祉を支える要素 | 9 地域活動事例を通して学ぶ社会資源の活用・調整の実際 |
| 2 地域の理解・地域アセスメント | 10 地域活動事例を通して学ぶ社会資源の開発の実際 |
| 3 地域の福祉ニーズの把握方法 | 11 地域活動事例を通して学ぶ地域トータルケアシステムの実際 |
| 4 地域福祉におけるネットワークの意義と目的 | 12 地域トータルケアシステムの要素と地域福祉 |
| 5 社会資源の活用・調整・開発の意義と目的 | 13 地域における福祉サービスの評価方法1 |
| 6 地域トータルケアシステムの構築の意義と目的 | 14 地域における福祉サービスの評価方法2 |
| 7 地域活動事例を通して学ぶニーズの把握方法 | 15 まとめと定期試験 |
| 8 地域活動事例を通して学ぶネットワークの実際 | |

〔テキスト〕 市川一宏・上野谷加代子・大橋謙策編『地域福祉の理論と方法』（中央法規）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験（70%）、小レポート（10%）、平常点（受講態度等）（20%）

26026

①心理学概論

S 広瀬香織

〔授業題目〕心理学の基礎知識

〔概要〕心理学理論に基づく人間理解、および心の健康や心理的支援について学び、日常生活や福祉・保育の仕事の実際と結びついて理解することを目的とする。

〔到達目標〕心理学の基礎知識および心理的支援の基礎について習熟する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 心と脳 | 9 コーピングとストレスマネジメント |
| 2 情動・情緒・欲求・動機づけ | 10 心理検査①（人格検査・適性検査） |
| 3 感覚・知覚・認知 | 11 心理検査②（発達検査・知能検査） |
| 4 学習・記憶・思考 | 12 カウンセリングの概念 |
| 5 集団・適応・人と環境 | 13 カウンセリングとソーシャルワークの関係 |
| 6 発達段階・発達課題 | 14 心理療法の概要と実際 |
| 7 愛着の発達・対象喪失 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 ストレッサーとストレス症状 | |

〔テキスト〕鈴木 清、『人間理解の科学—心理学への招待—』、ナカニシヤ出版

〔参考文献〕

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、小テスト 40 %

26027

①社会学概論

S 平川 茂

〔授業題目〕社会理論と社会システム

〔概要〕まず社会学の基本概念（社会的行為、社会システムなど）と社会理論（相互作用主義、機能主義）を理解し、それを基礎に家族、地域、社会問題などを理解する。

〔到達目標〕社会学の基本概念と社会理論を用いて考えることを通して、現代社会を深く理解できるようになること。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 社会的行為と相互行為 | 9 地域①都市と郊外 |
| 2 社会関係と社会集団および組織 | 10 地域②条件不利地域 |
| 3 社会構造と社会システム | 11 生活の捉え方 |
| 4 法と社会システム | 12 社会問題の捉え方 |
| 5 経済と社会システム | 13 社会問題①逸脱と社会的排除 |
| 6 社会変動と人口 | 14 社会問題②社会的ジレンマ |
| 7 家族①形態と機能 | 15 定期試験 |
| 8 家族②家族問題 | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕岩上真珠他編『ソーシャルワーカーのための社会学』（有斐閣）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、平常点 50 %

26029

②医学一般

W 瀧藤尊照

〔授業題目〕社会福祉士・精神保健福祉士の基礎知識

〔概要〕人間の成長・発達、リハビリテーション医療の概要、国際生活機能分類（ICF）、人体の構造・機能、疾病・障害、そして健康づくり・保健医療対策について講述します。又、社会福祉士や精神保健福祉士にとって何故一般的医学知識が必要かを考え、クライアントのもつ課題点を理解し、より良い援助を提供できるよう努力すると共に、地域社会での健康増進や福祉を進めることができるよう、医学一般に通じていくことを目的とします。

〔到達目標〕社会福祉士や精神保健福祉士として、人の日常生活の全体を「人」と「環境」とその「交互作用 transaction」としてとらえ、日常生活を営むのに支障がある人の福祉に関して、相談・援助を行うことができるようになることを到達目標とします。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 人間の成長・発達（精神分析理論、生涯発達視点の重要性） | 8 人体の構造・機能（循環器、泌尿器、感覚器官） |
| 2 人間の成長・発達（発達段階と課題） | 9 人体の構造・機能（内分泌系、自律神経系） |
| 3 人間の成長・発達（障害児者の発達の理解） | 10 国際生活機能分類（ICF）・リハビリテーション医療の概要 |
| 4 利用者の生活と心理的援助（生活の場、ストレス、心理的援助） | 11 疾病（がんとその予防、先天性疾患、老化） |
| 5 医学一般（医学の目的、医学知識の必要性、臨床医学） | 12 疾病（感染症とその対策） |
| 6 人体の構造・機能（人体全体の構造と機能） | 13 疾病（精神疾患） |
| 7 人体の構造・機能（呼吸器、消化器） | 14 疾病（神経疾患、難病） |
| | 15 保健医療対策の現状（健康づくり、臓器移植） |

〔テキスト〕『社会福祉士の基礎知識』（誠信書房）

〔参考文献〕社団法人日本社会福祉士養成校協会『社会福祉士のための基礎知識Ⅲ』（中央法規出版）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 90 %、その他平常点など 10 %

26044

②更生保護制度（編入生）

W 齊藤素子

〔授業題目〕司法福祉プロセス

〔概要〕刑事事件、少年事件、家族問題に関する司法プロセスおよび司法福祉を担う諸機関の連携の在り方について学習する。

〔到達目標〕司法プロセスを通して実現される福祉援助に必要な知識を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1 司法福祉とは | 8 医療観察制度について |
| 2 刑事事件の動向 | 9 少年非行をめぐる司法福祉の実際 |
| 3 少年事件の動向 | 10 離婚事件と司法手続 |
| 4 刑事事件手続きの流れ | 11 児童虐待事件と司法手続 |
| 5 少年事件手続きの流れ | 12 ドメスティック・バイオレンスと司法手続 |
| 6 刑事司法、少年司法分野で活動する組織、団体及び専門性 | 13 扶養事件と司法手続 |
| 7 更生保護制度について | 14 成年後見事件と司法手続 |
| | 15 まとめ |

〔テキスト〕『更生保護制度』中央法規

〔参考文献〕村尾泰弘、廣井亮一編『よくわかる司法福祉』ミネルヴァ書房

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常点 30 %

26046

②介護福祉（編入生）

S 信田光子

〔授業題目〕社会福祉士としての介護の視点

〔概要〕「介護とは」を考えていく。介護を必要とする人々の生活実態や社会情勢、関係する法制度を把握しながら、介護の概念、介護技法、介護予防などを理解する。人間観や倫理の視点も学び深める。

〔到達目標〕介護を必要とする人々の生活実態、取り巻く環境、介護の意味や目的を理解し、介護過程での技法やそれらに伴う人間観が習得できた。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 介護という用語の歴史的展開と、介護の概念や介護を必要とする対象を把握するための視点とその方法及び理念について理解 | 安全、快適、安寧など |
| 2 事例を用いて介護の実態を理解①（家族介護力の低下、介護者の実態などを含む） | 9 介護の技法と基本的な考え方を理解②（移動、移乗、福祉用具の活用、福祉用具専門員の役割） |
| 3 事例を用いて介護の実態を理解②（高齢者虐待を含む） | 10 介護の技法と基本的な考え方を理解③（認知症ケアの基本的考え方と実際） |
| 4 介護需要、介護の役割、多職種との連携について | 11 介護の技法と基本的な考え方を理解④（支援計画、介護支援専門員の役割、訪問介護員の役割） |
| 5 介護の原則、機能、過程及び範囲、介護活動の場での特徴を理解 | 12 介護の技法と基本的な考え方を理解⑤（終末ケアの基本的な考え方と実際） |
| 6 介護保険制度など関係法規とその運用状況について | 13 介護の技法と基本的な考え方を理解⑥（介護のための住環境） |
| 7 介護予防の必要性や介護予防プランについて | 14 これからの介護について及び介護における人間観と職業倫理を考える |
| 8 介護の技法と基本的な考え方を理解①（衣・食・住、及び排泄、服薬における介護技法の | 15 定期試験とまとめ |

〔テキスト〕授業時に紹介する。

〔参考文献〕適宜紹介する。

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験（60％）、レポート（30％）、平常点（10％）

26047

②障害者福祉（編入生）

S 原 順子

〔概要〕障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解するとともに、ノーマライゼーション、インクルージョンといった障害者福祉の基本的理念や、障害者福祉制度の発展過程を学ぶ。更に相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

〔到達目標〕障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解する。障害者福祉制度の基本的理念と発展過程を理解し、障害の概念と障害者の実態について修得する。障害者自立支援法の概要を理解し、組織及び団体と専門職の役割と実際、多職種連携、ネットワーキングを理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要 | 8 知的障害者福祉法の概要 |
| 2 障害者福祉の基本的理念の展開と障害者福祉制度の発展過程 | 9 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 |
| 3 障害者の統計的実態と障害の概念と人権 | 10 発達障害者支援法の概要 |
| 4 障害者自立支援法の概要と組織及び団体の役割と実際 | 11 障害者基本法の概要 |
| 5 障害者自立支援法における専門職の役割と実際、多職種連携、ネットワーキングと実際 | 12 心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律の概要 |
| 6 相談支援事業所の役割と実際 | 13 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の概要 |
| 7 身体障害者福祉法の概要 | 14 障害者の雇用の促進等に関する法律の概要 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕開講時に指示する

〔参考文献〕講義時に紹介する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 75％、平常点等 25％

26048

①児童福祉
児童福祉論Ⅰ
②児童福祉論Ⅰ

S 安部行照

〔授業科目〕 児童福祉の基礎概念

〔概要〕 児童福祉の意義や歴史的展開、法制度を体系的に理解し、児童福祉サービスの現状と課題について考察する。

また、児童虐待、非行の低年齢化等の問題を取り上げながら、児童福祉の専門職としての保育士の役割を理解する。

〔到達目標〕 児童福祉の専門職としての基礎概念を理解し、保育士としての必要条件とは何かを考察する。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 授業のオリエンテーション | 9 児童福祉の法体系 |
| 2 現代の児童福祉と保育士 | 10 児童福祉法 |
| 3 今日の児童を取り巻く環境 | 11 児童福祉をより充実させる法律 |
| 4 子どもの権利とは | 12 児童福祉の行政・実施機関 |
| 5 子どもを守る取り組み（権利擁護） | 13 児童福祉施設の種類と運営 |
| 6 子どもの権利擁護の実際 | 14 これからの児童福祉施設の課題 |
| 7 欧米における児童福祉の成り立ち | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 わが国における児童福祉の成り立ち | |

〔テキスト〕 伊達悦子他編 『保育士をめざす人の児童福祉』（株みらい）

〔参考文献〕 適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

26049

①相談援助の基盤と専門職Ⅰ

S 鳥海 直美

〔概要〕 身近な生活問題に引き寄せながらソーシャルワーカー（相談援助専門職）の役割や意義を学び、その実践の拠り所となる専門職倫理について理解を深めることを通して、人間・生活・社会をまなごす視点を培う。

〔到達目標〕 ①現代社会におけるソーシャルワーカーの役割を理解する。②ソーシャルワークの歴史的な形成過程を理解する。③ソーシャルワーカーが志向する価値・理念・倫理を理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 相談援助の理念① |
| 2 社会福祉士／精神保健福祉士の役割と意義① | 10 相談援助の理念② |
| 3 社会福祉士／精神保健福祉士の役割と意義② | 11 相談援助の理念③ |
| 4 相談援助の定義と構成要素① | 12 ソーシャルワーカーの倫理綱領① |
| 5 相談援助の定義と構成要素② | 13 ソーシャルワーカーの倫理綱領② |
| 6 相談援助の形成過程① | 14 ソーシャルワーク実践と倫理的ジレンマ |
| 7 相談援助の形成過程② | 15 定期試験および解説 |
| 8 相談援助の形成過程③ | |

〔テキスト〕 編：岩間伸之、福島喜代子：『新・社会福祉士養成講座 第6巻 相談援助の基盤と専門職』：中央法規出版

〔参考文献〕 講義時に紹介する

〔授業形態〕 講義・討論

〔成績評価の方法〕 受講態度など平常点 30%、定期試験 70%

26050

①相談援助の基盤と専門職Ⅱ

W 鳥海 直美

〔概要〕 さまざまな生きづらさを抱えた人間とそれを取り巻く環境に対して、多元的にアプローチするソーシャルワークの視点を学ぶことを通して、援助関係のあり方や専門職としてのあり方について考えを深める。

〔到達目標〕 ①コミュニティソーシャルワークの視点を理解する。②ジェネラル・ソーシャルワークの特質を理解する。③ソーシャルワーカーの専門的機能について理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 相談援助専門職の概念と範囲① |
| 2 コミュニティソーシャルワークの視点① | 10 相談援助専門職の概念と範囲② |
| 3 コミュニティソーシャルワークの視点② | 11 総合的かつ包括的な援助における専門的機能① |
| 4 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質① | 12 総合的かつ包括的な援助における専門的機能② |
| 5 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質② | 13 総合的かつ包括的な援助における専門的機能③ |
| 6 対象とニーズの把握 | 14 ゲストスピーカー |
| 7 社会資源の主体的活用 | 一ソーシャルワーカーの実践に学ぶ |
| 8 ソーシャルワークの媒介機能 | 15 定期試験および解説 |

〔テキスト〕 編：岩間伸之、福島喜代子：『新・社会福祉士養成講座 第6巻 相談援助の基盤と専門職』：中央法規出版

〔参考文献〕 講義時に紹介する

〔授業形態〕 講義・討論

〔成績評価の方法〕 受講態度など平常点 30%、定期試験 70%

26061

①相談援助の理論と方法Ⅰ（編入生） S 原 順子

〔概要〕 社会福祉サービスと専門援助活動の関係や援助活動の目的・価値・原則について、個別援助技術（ケースワーク）を通して学ぶ。また、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論や様々な実践モデルについて学ぶ。

〔到達目標〕 社会福祉サービスと専門援助活動の関係及び基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解できる。人権尊重、権利擁護、自立支援等や、社会福祉援助技術に由来する倫理について理解し、社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則・等について考察できる。また、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論や様々な実践モデルについて理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 社会福祉サービスと援助活動の関係 | 10 人と環境の相互作用：システム理論 |
| 2 福祉専門職と専門援助技術の関係 | 11 様々な実践モデルとアプローチ：治療モデル、生活モデル |
| 3 社会福祉援助活動の場と専門援助技術（相談援助の対象の概念と範囲を含む） | 12 様々な実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ |
| 4 専門援助技術の体系及び内容＜個別援助技術（ケースワーク）＞ | 13 様々な実践モデルとアプローチ：ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ |
| 5 社会福祉援助活動の目的・価値・原則（人権尊重、権利擁護、自立支援等を含む） | 14 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向、相談援助の実際（権利擁護活動を含む） |
| 6 面接（インテーク）と事前評価（アセスメント） | 15 定期試験 |
| 7 援助計画の作成 | |
| 8 援助活動の実施と評価 | |
| 9 専門援助技術の歴史的展開 | |

〔テキスト〕 開講時に指示する

〔参考文献〕 講義時に紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 75 %、平常点 25 %

26062

①相談援助の理論と方法Ⅱ（編入生） W 原 順子

〔概要〕 社会福祉サービスと専門援助活動の関係や援助活動の目的・価値・原則について、集団援助技術（グループワーク）を通して学ぶ。また、社会福祉援助活動の共通課題（記録・評価・IT活用など）や倫理について学ぶ。

〔到達目標〕 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえ、集団援助技術の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則・倫理等について理解できる。また、相談援助における事例分析の意義や方法、および相談援助の実際について理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| 1 集団を活用した相談援助の意義、目的 | 保護の意義 |
| 2 集団を活用した相談援助の方法、留意点 | 9 専門援助技術と倫理：相談援助と個人情報の保護の留意点 |
| 3 集団を活用した相談援助（グループダイナミックス） | 10 専門援助技術の統合化とチームによる対応 |
| 4 集団を活用した相談援助（自助グループなど） | 11 相談援助における情報通信技術（IT）の活用の意義と留意点 |
| 5 社会福祉援助活動の共通課題（記録の意義、目的、方法、留意点） | 12 相談援助における情報通信技術（IT）を活用した支援の概要 |
| 6 社会福祉援助活動の共通課題（評価の意義、目的、方法、留意点） | 13 事例分析（意義、目的、方法、留意点） |
| 7 専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義、目的、留意点、方法 | 14 相談援助の実際（権利擁護活動を含む） |
| 8 専門援助技術と倫理：相談援助と個人情報の保護の意義 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 開講時に指示する

〔参考文献〕 講義時に紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 75 %、平常点 25 %

26065

原 順子 畑智恵美 上續宏道 信田光子

①社会福祉援助技術演習 I

S / W 広瀬美千代 藤井 渉

社会福祉援助技術演習 I

⑩社会福祉援助技術演習 I

〔授業 題目〕 援助技術の活用能力・態度の育成

〔概 要〕 社会福祉援助技術に関する講義等と関連させながら、福祉の利用者の具体的な事例を取りあげて、社会福祉援助技術を考察することができるよう、演習形式により学習を進める。

〔到達 目標〕 学生の個別及び集団指導を通じて、専門的な援助技術の基礎となる知識と技術を、様々な場面で実際に活用できる能力と態度を育てる。

〔授業 計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 オリエンテーション | 3 社会福祉援助技術論 I の概念整理（発表形式） |
| 2 グループディスカッション（1）社会福祉援助技術演習の意義・目的（2）福祉専門職と専門援助技術の関係（3）社会福祉援助活動の原則 ①人権尊重 ②権利擁護 ③自立支援 | 4 グループによる事例検討 ①児童への援助 ②老人への援助 ③知的障害（児）者への援助 |
| | 5 評価とまとめ |

〔テキスト〕 プリント等適宜配布

〔参考文献〕 適宜必要に応じて紹介。

〔授業 形態〕 演習・発表・グループでの討論、ロールプレイ、事例研究など

〔成績評価の方法〕 レポート（課題提出を含む）60%、受講態度など平常点40%

26065

①社会福祉援助技術演習 I（編入生）

S 畑智恵美

〔授業 題目〕 社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術を習得するための基盤を実践的に学ぶ。

〔概 要〕 社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術に関する講義科目との関連性を持たせながら、個別演習やグループ演習を組み合わせ、基本となる「自己覚知（自己理解）」から、「人と人の関係性の理解」「他者理解」へと展開させる。その上で「基本的なコミュニケーション技術」「基本的な面接技術」については、個別演習、グループ演習に加えてロールプレイングを用いて実践的に学ぶ。

〔到達 目標〕 自己覚知が深まる。他者の価値観や生活を理解し、尊厳ある存在として受けとめることができる。コミュニケーションや面接場面で必要とされる知識、技術を模倣的に表現でき、理解できる。

〔授業 計画〕

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1 オリエンテーション（学修の概要と到達目標） | 9 基本的なコミュニケーション技術を習得する |
| 2 自己覚知（その1：自分と向き合い、自分の価値観を知る） | 10 基本的な面接技術の習得（その1） |
| 3 自己覚知（その2：他者との関係性の中の自分をみつめる） | 11 基本的な面接技術の習得（その2） |
| 4 他者を理解する | 12 基本的な面接技術の習得（その3） |
| 5 高齢者の生活を理解する | 13 事例を通してバイステックの原則を具体的に理解する（その1：受容、共感、信頼関係など） |
| 6 障がい者の生活を理解する | 14 事例を通してバイステックの原則を具体的に理解する（その2：自己決定、守秘義務など） |
| 7 母子・父子・家族システムと生活を理解する | 15 学びの相互評価、自己評価、今後の課題の明確化とまとめ |
| 8 価値観の多様性を学ぶ | |

〔テキスト〕 特に指定せず。適宜資料を配布する。

〔参考文献〕 適宜必要に応じて紹介

〔授業 形態〕 演習・発表・グループ討論、ロールプレイ、事例研究など

〔成績評価の方法〕 レポート（課題提出を含む）（60%）演習、発表等に取り組む態度等の平常点（40%）

26066

②社会福祉援助技術演習Ⅱ（編入生）

S

畑智恵美

〔授業題目〕社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術、倫理、価値を実践的に学ぶ。

〔概要〕社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術に関する講義科目との関連性を持たせながら、個別の援助事例を通して、利用者の生活を理解する。さらに、個別援助事例を活用して具体的な相談援助のプロセスを疑似体験する演習（個別指導・集団指導・ロールプレイング）を通して、総合的、包括的な援助の在り方を学ぶ。

〔到達目標〕相談援助を必要とする対象者の生活の課題を理解できる。具体的な個別相談援助事例の援助過程を模擬的に演習形式で実践し、理解できる。援助過程で求められる専門職としての知識、技術、倫理、価値を具体的に理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| <p>1 オリエンテーション（学修の概要と到達目標）</p> <p>2 事例を用いた演習の取り組み方法（個別演習・グループ演習・ロールプレイング）の説明</p> <p>3 信頼関係構築のための基本（専門職の倫理・価値）を学ぶ（高齢・障害・児童領域の何らかの危機状態にある事例を用いての個別演習・グループ演習）</p> <p>4 相談援助の初期面接（インテーク）場面を学ぶ（高齢・障害・児童領域の何らかの危機状態にある事例を用いての個別演習・グループ演習およびロールプレイング）</p> <p>5 相談援助利用者の生活への理解を深める（その1：高齢・障害・児童の事例（虐待事例も含む）を用いての個別演習・グループ演習）</p> <p>6 相談援助利用者の生活への理解を深める（その2：低所得者、ホームレスなどの事例を用いての個別演習・グループ演習）</p> <p>7 相談援助のアセスメントとニーズの明確化および利用者の可能性を見出す視点（利用者主体のアプローチ）を事例を用いて学ぶ（その1：高齢・障害・児童の事例（虐待事例も含む）を用いての個別演習・グループ演習およびロールプレイング）</p> <p>8 相談援助のアセスメントとニーズの明確化および利用者の可能性を見出す視点（利用者主</p> | <p>体のアプローチ）を事例を用いて学ぶ（その2：家庭内暴力、低所得者、ホームレスの事例を用いての個別演習・グループ演習およびロールプレイング）</p> <p>9 プランニングと他機関、他職種との連携（チームアプローチと社会資源の活用・調整・開発）を学ぶ（その1：高齢・障害・児童の事例（虐待事例も含む）を用いての個別演習・グループ演習）</p> <p>10 プランニングと他機関、他職種との連携（チームアプローチと社会資源の活用・調整・開発）を学ぶ（その2：家庭内暴力、低所得者、ホームレスの事例を用いての個別演習・グループ演習）</p> <p>11 支援の実施とモニタリング、効果測定について、具体的な相談援助事例を通して学ぶ</p> <p>12 終結とアフターケア、社会資源の開発について、具体的な相談援助事例を通して学ぶ</p> <p>13 一連の個別相談援助過程の振り返り、総合的、包括的な援助のあり方として体系化する（個別演習・グループ演習）</p> <p>14 専門職の役割（資質、知識、技能）を総括して、体系化する（個別演習・グループ演習）</p> <p>15 学びの相互評価、自己評価、今後の課題の明確化とまとめ</p> |
|---|---|

〔テキスト〕特に指定せず。適宜資料を配布する。

〔参考文献〕適宜、必要に応じて紹介する。

〔授業形態〕演習・発表・グループ討論、ロールプレイ、事例研究など。

〔成績評価の方法〕レポート（課題提出を含む）（60％）演習、発表等に取り組む態度等の平常点（40％）

26067

②社会福祉援助技術演習Ⅲ（編入生） W 畑智恵美

〔授業題目〕社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術、倫理、価値を実践的に学ぶ。

〔概要〕社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術に関する講義科目との関連性を持たせながら、個別・集団の援助事例を通して、利用者の生活や守られるべき権利を理解する。さらに、個別・集団援助事例を活用して具体的な相談援助のプロセスを疑似体験する演習（個別指導・集団指導・ロールプレイング）を通して、権利擁護活動や地域への働きかけ（アウトリーチ、ネットワーキング）、チームアプローチなどの専門的技術を実践的かつ包括的に学ぶ。

〔到達目標〕相談援助を必要とする対象者の生活の課題を理解し、その権利擁護活動が具体的に理解できる。具体的な個別・集団相談援助事例の援助過程を模擬的に演習形式で実践し、理解できる。具体的な個別・集団相談援助事例の援助過程を通して、地域への働きかけ（アウトリーチやネットワーキング）やチームアプローチが理解できる。援助の理念、援助の過程、地域福祉との関係性、関係機関との連携やチームアプローチなど具体的、包括的、体系的に理解できる。援助過程で求められる専門職としての知識、技術、倫理、価値を具体的に理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 オリエンテーション（学修の概要と到達目標） | プロセス（プランニング・支援の実施・モニタリング等）を学ぶ（個別演習、グループ演習およびロールプレイングを用いる） |
| 2 相談援助専門職のアドボカシー機能（権利擁護・代弁機能）および権利擁護活動を学ぶ（社会的排除の個別・集団相談援助事例を用いての個別・グループ演習およびロールプレイング） | 9 集団援助事例を通して、地域への働きかけ（アウトリーチやネットワーキング）を具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる） |
| 3 地域の理解と協力を得るための働きかけの手法（アウトリーチやネットワーキング）の意義を学ぶ（社会的排除の個別・集団相談援助事例を用いての個別・グループ演習およびロールプレイング） | 10 集団援助事例を通して、他機関、他職種との連携とチームアプローチを具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる） |
| 4 個別援助事例を通して、地域への働きかけ（アウトリーチやネットワーキング）を具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる） | 11 集団援助事例を通して、専門職のアドボケート機能（権利擁護活動・代弁機能）を具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる） |
| 5 個別援助事例を通して、他機関、他職種との連携とチームアプローチを具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる） | 12 集団援助事例を通して、社会資源の活用・調整・開発を具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる） |
| 6 個別援助事例を通して、専門職のアドボケート機能（権利擁護活動・代弁機能）を具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる） | 13 一連の集団相談援助過程の振り返り、総合的、包括的な援助のあり方として体系化する（個別演習・グループ演習を用いる） |
| 7 集団援助事例を通して、相談援助の一連のプロセス（インテーク・アセスメント・ニーズの明確化）を学ぶ（個別演習、グループ演習およびロールプレイングを用いる） | 14 個別、集団相談援助事例におけるアウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発の意義を体系的、包括的に理解する（個別演習・グループ演習を用いる） |
| 8 集団援助事例を通して、相談援助の一連のプロセス | 15 学びの自己評価、相互評価、今後の課題の明確化とまとめ |

〔テキスト〕特に指定せず。適宜資料を配布する。

〔参考文献〕適宜、必要に応じて紹介する。

〔授業形態〕演習・発表・グループ討論、ロールプレイ、事例研究など。

〔成績評価の方法〕レポート（課題提出を含む）（60％）演習、発表等に取り組む態度等の平常点（40％）

26070

②社会福祉援助技術実習指導A（編入生） S 畑智恵美 広瀬美千代

〔授業題目〕 ソーシャルワーク専門職への学び

〔授業全体の内容の概要〕 相談援助実習の意義について理解する。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義について理解できる。実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む。）と施設・事業所・機関・団体・地域社会等に関する基本的なことが理解できる。実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関することが理解できる。相談援助を利用する、あるいは必要とする方々について理解できる。対人援助に求められる技能を習得し相談援助場面での活用をシミュレーションできる。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の形態・学習内容・成績評価方法の説明、テキスト・参考文献紹介）相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導について、その方法、意義を理解させる。 2 実習生としての心得を認識させ、併せて実習中の事故、不測の出来事への対応（リスクマネジメント）を理解させる。 3 相談援助に係る自己覚知について理解させる。 4 対人援助に共通する援助スキルについて理解させる①（傾聴・受容・共感）。 5 対人援助に共通する援助スキルについて理解させる②（コミュニケーションスキル）。 6 対人援助に共通する援助スキルについて理解させる③（バイステックの7原則）。 7 実習分野についての学習①社会福祉施設、関係機関の役割・事業内容、利用者、職員、関係法令についてなどを調べる。 8 実習分野についての学習②社会福祉施設、関係機関の役割・事業内容、利用者、職員、関係法令についてなどを調べる。 9 利用者やその関係、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションのとり方など円 | <p>滑な人間関係の形成について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 10 実践現場の専門職員による実務講義①（児童福祉施設から講師招聘）。 11 グループワーク；児童福祉施設の現状を学ぶ。（利用児理解を含む）保育に必要とされる基本的な知識、技術および関連業務に関する基本的なことを理解する。併せて児童福祉における支援計画について理解していく。 12 実践現場の専門職員による実務講義②（高齢者福祉サービス事業所から講師招聘）。 13 グループワーク；高齢者福祉サービスの現状を学ぶ。（利用児理解を含む）介護に必要とされる基本的な知識、技術および関連業務に関する基本的なことを理解する。併せて高齢者における支援計画について理解していく。 14 実践現場の専門職員による実務講義③（障がい者福祉サービス事業所から講師招聘）。 15 グループワーク；障がい者福祉サービスの現状を学ぶ。（利用児理解を含む）援助に必要とされる基本的な知識、技術および関連業務に関する基本的なことを理解する。併せて障がい者福祉における支援計画について理解していく。 |
|---|---|

〔テキスト〕 福祉小六法編集委員会編『福祉小六法 2009年編版』(株)みらい

対人援助実践研究会 HEART『対人援助実習サポートブック』久美株式会社

〔参考文献〕 適宜、必要に応じて紹介する。

〔授業形態〕 講義・演習・発表・グループ討論など。

〔成績評価の方法〕 課題レポート・小テスト（課題提出を含む）（50%）、発表（20%）授業態度等の平常点（30%）

26081

②社会福祉援助技術実習指導 B (編入生) W 畑智恵美 広瀬美千代

〔授業科目〕 ソーシャルワーク専門職への学び

〔授業全体の内容の概要〕 相談援助実習の意義について理解する。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔授業終了時の達成課題 (到達目標)〕 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義について理解できる。実際に実習を行う実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業所・機関・団体・地域社会等に関する基本的なことが理解できる。実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関することが理解できる。相談援助を利用する、あるいは必要とする方々について理解できる。対人援助に求められる技能を習得し相談援助場面での活用をシミュレーションできる。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| <p>1 実習先で行われている介護 (ケアワーク) に必要とされる個別援助 (支援) 計画の作成方法を理解させる。</p> <p>2 実習先で行われている保育 (ケアワーク) に必要とされる個別支援計画の作成方法を理解させる。</p> <p>3 実習に向けて先輩からのアドバイスを受け、実習イメージをより具体的に考えさせる (パネルディスカッション方式)。</p> <p>4 実習に向けて先輩からのアドバイスを聞いたの感想をもとにシェアリング実習をどのように取り組むかを具体的に考えさせる。</p> <p>5 利用者やその関係者 (家族・親族・友人等) への権利擁護及び支援 (エンパワメント) とその評価について理解させる。また社会資源の活用などを理解させる。</p> <p>6 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチについて理解させる。併せて、個人のプライバシーの保護と守秘義務を理解させる (個人情報保護法の理解を含む)。</p> <p>7 実習計画について① 実習計画の目的を理解させ、実習計画書作成に関する方法を理解させる。</p> | <p>8 実習計画について② 各自の志望動機を明確にさせ実習に係る意義を理解させる。</p> <p>9 実習計画について③ 実習の具体的な達成課題とその取り組み方法を考えさせる。</p> <p>10 記録の重要性と専門職としての記録方法を理解させる。</p> <p>11 実習記録ノートの目的と記録内容及び記録方法を理解させる。</p> <p>12 現場体験学習及び見学実習※ (実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験を含む)。</p> <p>13 現場体験学習ノートの相互評価を通して、記録のあり方の理解を深める。</p> <p>14 現場体験学習の総括レポート及び課題達成度に関してシェアリングを実施し体験学習によって得た知識、技術を共有する。</p> <p>15 実践現場の専門職による実務講義④ (相談援助機関から講師招聘)。
※現場体験学習及び見学実習： (40 時間。種別は児童・高齢・障がい者施設とする) を実施する。 *実習ノートと総括レポートを記入させる。</p> |
|--|--|

〔テキスト〕 福祉小六法編集委員会編『福祉小六法 2009 年編版』(株)みらい
対人援助実践研究会 HEART『対人援助実習サポートブック』久美株式会社

〔参考文献〕 適宜、必要に応じて紹介する。

〔授業形態〕 講義・演習・発表・グループ討論など。

〔成績評価の方法〕 課題レポート・小テスト (課題提出を含む) (50%)、発表 (20%) 授業態度等の平常点 (30%)

26084

①仏教福祉論

W 名和月之介

〔授業題目〕 仏教福祉の基本的考え方

〔概要〕 仏教福祉について、基本的な用語・考え方を学び、その歴史的・社会的な展開過程を概観する。また現代の社会福祉の諸課題を仏教との関係で考えてみる。

〔到達目標〕 仏教福祉について基本的な理解を得ると共に、社会福祉の実践活動における仏教的視点を修得する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 仏教福祉とは何か (1) | 9 仏教福祉の倫理と実践 (1) |
| 2 仏教福祉とは何か (2) | 10 仏教福祉の倫理と実践 (2) |
| 3 仏教と社会福祉の関係 (1) | 11 仏教福祉の現代的課題 ターミナルケア |
| 4 仏教と社会福祉の関係 (2) | 12 仏教福祉の現代的課題 臓器移植・中絶 |
| 5 仏教福祉の歴史 古代・中世 | 13 仏教福祉の現代的課題 世界の仏教福祉 |
| 6 仏教福祉の歴史 近世・近代 | 14 仏教福祉の展望と課題 |
| 7 仏教福祉の歴史 近現代 (1) | 15 定期試験 |
| 8 仏教福祉の歴史 近現代 (2) | |

〔テキスト〕 日本仏教社会福祉学会編『仏教社会福祉辞典』（法蔵館）を中心にレジュメ配布

〔参考文献〕 適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、レポートと受講参加度 30%

26087

①家庭福祉論（編入生）

W 安部行照

児童福祉論Ⅱ

⑩児童福祉論Ⅱ

〔授業題目〕 現実の児童福祉の諸問題

〔概要〕 わが国の児童福祉領域を現実直視すれば、虐待、不登校、児童による反社会的行為、非社会的行為、養育者の過保護等々問題は山積している。児童福祉論Ⅰを基礎として児童福祉援助活動の事例を紹介しながら、現代社会における児童福祉問題を考察しその理解を深める。

〔到達目標〕 児童福祉の専門職としての基礎概念を理解から現実の児童福祉の諸問題への理解をする。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 児童養護の意味と動向 | 9 児童虐待にかかわる制度と施策 |
| 2 児童養護サービスの過程と内容 | 10 少子社会での子育ての問題 |
| 3 児童養護の今後の課題 | 11 ひとり親家庭への支援 |
| 4 保育サービスの意味 | 12 子育て支援と健全育成 |
| 5 保育にかかわる制度と施策 | 13 児童福祉にかかわる専門職 |
| 6 障害児を取り巻く環境 | 14 専門職の知識と技術 |
| 7 障害児の福祉と保育 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 児童虐待の現状と背景 | |

〔テキスト〕 伊達悦子他編『保育士をめざす人の児童福祉』（株みらい）

〔参考文献〕 適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、平常点 30%

26089

①保育原理Ⅰ

S 埋橋玲子

保育原理A

⑩保育原理A

〔授業題目〕 保育の本質、目的の理解

〔概要〕 子どもを取り巻く状況がめまぐるしく変化する今日、保育者として子どもに関わるにあたりその基礎となる人間観、子ども観、保育観を考察し、保育者の役割、家族に対する相談援助活動について。

〔到達目標〕 保育の意義について理解し、原理・特性・環境・方法についての入門的知識を得る。

〔授業計画〕

- | | | |
|--------------|------------|--------------|
| 1 保育者養成と保育原理 | 6 子どもの発達 | 11 保育の環境① |
| 2 養護と教育 | 7 日本の保育制度 | 12 保育の環境② |
| 3 近代保育史 | 8 海外の保育制度 | 13 保育の内容① |
| 4 現代の保育理論 | 9 地域と家庭 | 14 保育の内容② |
| 5 子どもの理解 | 10 幼稚園と保育所 | 15 まとめ及び定期試験 |

〔テキスト〕 民秋言『保育原理』 萌文書林、厚生労働省『保育所保育指針解説書』 フレーベル館

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90%、平常点 10%

26090

①保育原理Ⅱ

W 埋橋玲子

保育原理B

②保育原理B

〔授業題目〕 保育の本質、目的の理解

〔概要〕 保育制度の歴史や現行の保育制度を踏まえながら現代の多様な保育ニーズを捉えるとともに、保育の専門職として親や地域と連携した保育の必要性、相談援助、保育評価、苦情解決等を理解する。

〔到達目標〕 保育の意義について理解し、原理・特性・環境・方法についての発展的知識を得る。

〔授業計画〕

- | | | |
|------------|-----------------|---------------|
| 1 保育の方法的原理 | 6 保育者の資質 | 11 乳児保育 |
| 2 保育の形態 | 7 園と家庭の連携 | 12 保育の課題 |
| 3 保育課程 | 8 子育ての相談・援助 | 13 子どもを取りまく環境 |
| 4 指導計画 | 9 保育ニーズの多様化 | 14 保育者の専門性 |
| 5 記録と評価 | 10 多様な保育ニーズへの対応 | 15 まとめ及び定期試験 |

〔テキスト〕 民秋言 『保育原理』 萌文書林、厚生労働省 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90 %、平常点 10 %

26101

①養護原理

S 安部行照

養護原理Ⅰ

②養護原理Ⅰ

〔概要〕 社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景等を理解し、社会的養護の体系や児童福祉施設等の役割と、援助者としての保育士の役割についての理解を深めながら施設養護観を養う。

〔到達目標〕 児童養護を社会的養護の場面でどのように展開すべきかを考察する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 家庭養護と社会的養護 | 9 児童養護の形態 |
| 2 児童養護実践の課題 | 10 施設養護の種類と内容 |
| 3 戦後からの養護問題 | 11 家庭的養護の種類と内容 |
| 4 高度成長期以降の養護問題 | 12 施設養護の過程 |
| 5 社会の動向と子どもの権利 | 13 施設養護における保育士の援助 |
| 6 子どもの権利を守る取り組み | 14 自立支援計画の策定 |
| 7 児童養護の基本的な考え方 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 集団の活用 | |

〔テキスト〕 伊達悦子他編 『保育士をめざす人の養護原理』 (株)みらい)

〔参考文献〕 適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点 20 %

26102

①教育原理(編入生)

S 韓在熙

②教育原理

〔授業題目〕 教育の基礎的理論と実践原理

〔概要〕 教育の意義や目的、教育と児童福祉との関連の把握をもとに、教育学にまつわる基礎的概念や理論、思想史を踏まえるとともに、教育制度と実践原理を学修し、あわせて生涯学習に関する知見を養う。

〔到達目標〕 教育及び児童福祉との関連について理解するとともに、教育の制度と基本的な実践原理を学び、教育的な思考や態度を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 1 教育の意義、目的及び児童福祉との関連性Ⅰ(教育の意義と目的) | 7 教育の制度Ⅱ(諸外国の教育制度) |
| 2 教育の意義、目的及び児童福祉との関連性Ⅱ(教育と児童福祉との関連性) | 8 教育の実践Ⅰ(教育の内容と方法) |
| 3 教育の基礎的概念と諸理論(幼児教育の理論・諸外国の教育理論) | 9 教育の実践Ⅱ(教職と生徒指導①) |
| 4 教育の歴史Ⅰ(諸外国の教育史・日本の教育史) | 10 教育の実践Ⅲ(教職と生徒指導②) |
| 5 教育の歴史Ⅱ(子ども観と教育観の変遷) | 11 生涯学習社会における教育(生涯学習の基礎) |
| 6 教育の制度Ⅰ(教育法規・教育行政の基礎) | 12 現代的教育問題Ⅰ(教育と児童福祉の諸問題) |
| | 13 現代的教育問題Ⅱ(教育と児童福祉の諸問題) |
| | 14 現代的教育問題Ⅲ(教育と児童福祉の諸問題) |
| | 15 定期試験 まとめ |

〔テキスト〕 田原恭蔵・林勲編著『教育概論』(法律文化社)

〔参考文献〕 『幼稚園教育要領・保育所保育指針』(チャイルド本社)

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、出席及び課題等 30 %

26103

①発達心理学 (編入生)

S 茂木 洋

発達心理学 I

⑩発達心理学 I

〔授業題目〕 誕生から児童期まで

〔概要〕 子どもの発達についての基礎的知識や考え方を学び、発達期の子どもの特徴を理解する。また子どもの発達に影響を及ぼす保育士と子どもとの関係についても考察する。

〔到達目標〕 子どもの発達について関係性の観点から学び、基礎的な知識を習得する。

〔授業計画〕

- | | | |
|---------------|----------|---------------|
| 1 発達心理学とは | 6 愛着の発達 | 11 道徳性の発達 |
| 2 胎児から新生児への発達 | 7 発達の飛躍 | 12 児童期の仲間関係 |
| 3 乳児期の発達① | 8 認知の発達① | 13 発達の障害と支援① |
| 4 乳児期の発達② | 9 認知の発達② | 14 発達の障害と支援② |
| 5 乳児期の発達③ | 10 遊びの発達 | 15 定期試験およびまとめ |

〔テキスト〕 適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕 授業中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 100 %

26104

①教育心理学 (編入生)

S 石上浩美

⑩教育心理学

〔授業題目〕 教育について心理学的に考える

〔概要〕 心理学の観点から、生徒にとってよりよい教育とは何かについて考察する。発達・学習・動機づけ・知能といった基礎的内容から授業の構築・学級経営、生徒が抱える諸問題など発展的内容まで扱う。

〔到達目標〕 1. 人間の発達について理解する。2. 発達を促す教育的働きかけの基礎となる理論を理解する。3. 生徒が抱える問題の理解と援助法について考察する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1 教育心理学とは何か | 9 パーソナリティと適応 |
| 2 教育と発達 | 10 学級集団 |
| 3 学習の原理 | 11 不登校・いじめ・暴力行為 |
| 4 意欲と動機づけ | 12 発達障害を持つ子どもの理解と対応 |
| 5 知能と学力 | 13 これからの特別支援教育 |
| 6 教授—学習過程 | 14 教育相談の進め方 |
| 7 教育評価 | 15 定期試験 |
| 8 教育測定と統計 | |

〔テキスト〕 本郷一夫・八木成和著『シードブック 教育心理学』（建帛社）

〔参考文献〕 適宜資料を配布する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点 20 %

26105

㉑小児保健Ⅰ

S 毛受矩子

小児保健Ⅰ

㊦小児保健Ⅰ

〔授業題目〕子どもの体とこころの発育発達Ⅰ

〔概要〕生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味を理解し、今日の小児の心身の健康上の問題に適切に対応し得る力を習得する。と同時に、保育士として必要な小児基礎看護及び救急処置に対する実際の指導を行う。また小児の健康が家庭や地域と密接な関係があることを認識し、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性を理解する。

〔到達目標〕小児保健をめぐる医学的・社会的課題を理解し、小児の健康の保持増進に向けた疾病予防と異常の早期発見の重要性を理解することができる知識と能力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1 小児の健康の定義と健康に影響をする要因 | 9 小児の栄養 |
| 2 小児の健康と保育との関係 | 10 小児各時期の食生活の実際 |
| 3 小児の健康と家庭・地域の関連 | 11 小児各時期の健康づくりの意義 |
| 4 小児の健康指標と小児保健水準 | 12 小児各時期の健康づくりの実際 |
| 5 小児の身体的発育とその評価 | 13 小児期の健康状態の評価 |
| 6 精神運動機能の発達の特徴とその評価 | 14 小児期の疾病の特徴と小児期で多く見られる疾病 |
| 7 生理機能と小児の生活 | 15 定期試験とまとめ |
| 8 発育・発達を促す保育の実際 | |

〔テキスト〕「澤田 淳編 最新小児保健」日本小児医事出版社・配布資料

〔参考文献〕「国民衛生の動向」財団法人厚生統計協会

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常点 30 %

26106

㉑小児保健Ⅱ

W 毛受矩子

小児保健Ⅱ

㊦小児保健Ⅱ

〔授業題目〕子どもの体とこころの発育発達Ⅱ

〔概要〕小児の健康状態を、個人生活と保育生活等の集団生活レベルで理解させると同時に小児の疾病異常や事故の特徴とその予防について理解し、さらに緊急時の基礎的対応を可能にさせる。また小児の健康が家庭や地域との密接な関係にあることから関係機関との連携や地域ネットワークの重要性も理解する。

〔到達目標〕「小児保健Ⅰ」の基礎のうえに、小児の特徴的な疾患を理解し、集団保育での疾病の予防とケアができ、また子ども虐待問題の早期発見、対応ができる知識と能力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 心身の状態と保育現場で必要な応急処置 | 9 児童福祉施設における保健活動の基本的方針 |
| 2 予防接種 | 10 各種の児童福祉施設の特徴と健康管理の実際 |
| 3 児童虐待をめぐる養育上の問題と心身の健康 | 11 保健活動における連携 |
| 4 慢性疾患と支援体制 | 12 地域・母子保健の意義 |
| 5 不慮の事故と安全対策、小児の事故の特徴 | 13 母子保健サービスの実際 |
| 6 事故と心身の被害と応急処置 | 14 母子保健サービスと保育との連携 |
| 7 事故防止対策と安全教育 | 15 定期試験とまとめ |
| 8 事故や災害と精神保健 | |

〔テキスト〕「澤田淳編 最新小児保健」日本小児医事出版社・配布資料

〔参考文献〕「国民衛生の動向」財団法人厚生統計協会

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常点 30 %

26108

小児栄養 A

S 柘植美紀子

⑩小児栄養 A

〔授業題目〕 小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義

〔概要〕 小児期の栄養食生活は生涯の健康と生活の基礎となるものであることを理解し、小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を学ぶ。また、保育者として小児に適した食事が提供できることの意義を理解する。さらに、乳幼児、病児、病弱児、障害児など子ども達の年齢、身体状況に適した食事を、実際に献立を立てるなどしながら実践的に学ぶ。また、季節感のある食事についても理解を深める。

〔到達目標〕 小児期の栄養、食生活は生涯の健康、生活の基礎となるものであることを理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 小児栄養の意義と重要性 | 9 小児の栄養と生理 |
| 2 小児の発育と発達 | 10 栄養素の消化・吸収・代謝 |
| 3 栄養と栄養素 栄養素のはたらき | 11 授乳期の栄養 |
| 4 日本人の食事摂取基準 | 12 演習：調乳方法・授乳方法「無菌操作法によって育児用ミルクを調乳してみよう」 |
| 5 食生活の基本 | 13 離乳期の栄養 |
| 6 演習：献立作成と調理「一日の献立を考え、調理してみよう」 | 14 乳児保育と離乳演習：離乳食の献立と調理「離乳食を作ってみよう」 |
| 7 食生活指針 | 15 定期試験 およびまとめ |
| 8 演習：食生活指針「食生活指針をもちい、自分の食生活をチェックしてみよう」 | |

〔テキスト〕 青木菊麿・小川雄二編著『小児栄養演習』（建帛社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 55 %、平常点 45 %

26108

⑪小児栄養

W 柘植美紀子

〔授業題目〕 生涯の健康と生活の基礎となる小児期の栄養、食生活

〔概要〕 小児期の栄養食生活は生涯の健康と生活の基礎となるものであることを理解し、小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を学ぶ。また、保育者として小児に適切な食事が提供できることの意義を理解する。さらに、乳幼児、病児、病弱児、障害児など子ども達の年齢、身体状況に適した食事を、実際に献立を立てるなどしながら実践的に学ぶ。また、季節感のある食事についても理解を深める。

〔到達目標〕 小児期の栄養、食生活は生涯の健康、生活の基礎となるものであることを理解し、年齢、身体状況に応じた献立を立て、食事を提供できること。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1 オリエンテーション 小児栄養の意義と重要性 | 8 離乳期の栄養 |
| 2 小児栄養学の基礎 | 9 幼児期の栄養① |
| 3 小児の発育と発達 | 10 幼児期の栄養② |
| 4 栄養と栄養素 | 11 学童期・思春期の栄養 |
| 5 栄養素のはたらき 日本人の食事摂取基準 | 12 集団の給食 |
| 6 小児の栄養と生理 | 13 小児の栄養をめぐらる問題① |
| 7 授乳期の栄養 | 14 小児の栄養をめぐらる問題② |
| | 15 定期試験 まとめ |

〔テキスト〕 青木菊麿編『小児栄養演習』（建帛社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、レポート等平常点 30 %

26109

①精神保健（編入生）

S 武中美佳子

②精神保健

〔授業題目〕 ライフサイクルと心の健康

〔概要〕 精神保健について健康の定義、発症要因、予防の考え方、精神障害者の入院・在宅の問題、認知症、アルコール依存、思春期、ターミナルケア等の問題への取り組み、発達課題・精神的危機・問題行動等について理解する。

〔到達目標〕 精神保健についての基本知識、ライフサイクルにおける精神保健、地域保健、諸外国における精神保健、関連法および施設について理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 精神保健についての基礎知識 | 9 老年期認知症対策 |
| 2 ライフサイクルにおける精神保健 | 10 アルコール関連問題対策 |
| 3 学童期における精神保健 | 11 薬物乱用防止対策 |
| 4 思春期における精神保健 | 12 思春期精神保健対策 |
| 5 青年期における精神保健 | 13 地域精神保健対策 |
| 6 成人期における精神保健 | 14 ターミナルケアと精神保健 |
| 7 老年期における精神保健 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 精神保健における個別課題—精神障害者対策 | |

〔テキスト〕 十束支郎他共著『新しい精神保健』（医学出版社）

〔参考文献〕 品川浩三編著『精神保健 教育・保育双書』（北大路書房）その他、授業において適宜紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 点、平常点 30 点

26110

①家族援助論（編入生）

S 原健一郎

②家族援助論

〔授業題目〕 支援が必要な家族への援助

〔概要〕 保育所のもつ「子育て支援」機能を重要な社会的役割と理解し、家族を取り巻く社会環境、家族の人間関係のあり方の理解を踏まえ適切な「相談・支援」の必要性を学ぶ。

〔到達目標〕 家族とは何かを、様々な視点から理解する。「子育て支援」を始め、なぜ、今、家族への社会的支援が必要なのかを理解し、援助手法を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 家族とは？ | 9 食育推進 |
| 2 家族と法律 | 10 福祉的支援 —子育て支援— |
| 3 家族に対する国民の意識 | 11 保健医療的支援 |
| 4 家族機能と変化 | 12 特別な配慮を必要とする支援 |
| 5 支援を必要とする家族 | 13 子どもと家族のための相談入門 |
| 6 少子対策 | 14 事例を使った相談演習 |
| 7 児童虐待 | 15 定期テスト まとめ |
| 8 子どもを預ける —保育園と学童保育— | |

〔テキスト〕 自作プリント（学内ホームページで公開します）

〔参考文献〕 講義の中で、適宜、紹介します。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 平常点・レポート点 60 点、定期テスト 40 点

26121

①保育内容総論

S 長谷範子

保育内容総論 I

⑩保育内容総論 I

〔授業題目〕総合的活動としての保育の理解

〔概要〕 保育所保育指針による領域別の学びを総合的に理解するとともに、今日の子どもを取り巻く状況を踏まえながら保育内容を総合的な活動として実践に活かす手立てを考察する。また、多様化する保育ニーズに応える保育内容を考察、その中で子どもの育ちを支える保育者の専門性について学び、保育内容の総合的理解を深める。

〔到達目標〕 保育の領域別の学びを総合的に理解し、総合的活動としての保育について考察する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|--------------------|
| 1 保育内容を総論としてとらえる (1) 「保育」とは | 7 保育の特質と目的 |
| 2 保育内容を総論としてとらえる (2) 「子ども観」—保育の基本 | 8 環境による保育の考え方 |
| 3 子どもの生活—子どもを取り巻く環境 | 9 保育における計画とその考え方 |
| 4 子どもの発達とは | 10 環境構成—環境を通じた指導 |
| 5 子どもの生活と発達—「見える育ち」と「見えない育ち」 | 11 子どもの主体的活動としての遊び |
| 6 保育内容の変遷と現在の保育内容 | 12 保育における記録と評価 |
| | 13 保育者論 |
| | 14 現代の保育の課題と保育内容 |
| | 15 定期試験とまとめ |

〔テキスト〕 太田悦生編『新・保育内容総論』（株みらい）

〔参考文献〕 適宜必要に応じて授業にて紹介する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、レポート等 20 %、平常点 10 %

26124

①保育内容（環境）

W 長谷範子

保育内容（環境）

⑩保育内容（環境）

〔授業題目〕子どもの育ちを支える環境とは

〔概要〕 新・幼稚園教育要領・保育所保育指針を踏まえながら、「環境による保育」を実践するために、子どもの環境を構成する物的環境と人的環境について学び、子ども自身が自ら主体として身近な環境に積極的にかかわっていく力を育てるための保育の内容を考察する。また、人的環境である保育者として求められる感受性、受容的・共感的かかわりについて深く学ぶ。

〔到達目標〕 子どもを取り巻く物的環境・人的環境について理解する。さらに、「環境による保育」実践に必要な環境構成について学び、課題を捉え考察する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 保育の基本と保育内容 | 9 日常のなかでの興味や関心 (1) |
| 2 保育内容「環境」と幼児理解 | 10 日常のなかでの興味や関心 (2) |
| 3 好奇心・探究心の保育的特性とその育成 | 11 地域・行事とのかかわり |
| 4 人的環境としての友だち、保育者 | 12 「環境」からみた道徳性の芽生えを培う指導 |
| 5 物的環境としての園具・遊具・素材 (1) | 13 乳幼児期の安全教育 |
| 6 物的環境としての園具・遊具・素材 (2) | 14 保育内容「環境」からみた実践的課題 |
| 7 自然環境としての動物 | 15 定期試験とまとめ |
| 8 自然環境としての植物 | |

〔テキスト〕 小田豊・湯川秀樹編『保育内容 環境』（北大路書房）

〔参考文献〕 適宜必要に応じて授業にて紹介する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、レポート等 20 %、出席等平常点 10 %

26128

①障害児保育

S 原健一郎

障害児保育

⑩障害児保育

〔授業題目〕 発達支援の必要な子ども達

〔概要〕 障害児保育の変遷と現状、課題を理解するとともに、様々な障害について理解し、具体的な保育方法、個別的な保育上の留意点について学ぶ。また障害児の家庭との連携、家庭に対する支援の内容について理解を深める。

〔到達目標〕 各人が様々な障害について調べ、グループでまとめて発表し、理解を深める中で、実際に障害児保育に役立つ、感性を磨き知識と手段を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 障害児の理解① | 9 知的障害の理解と対応 |
| 2 障害児の理解② | 10 身的障害の理解と対応 |
| 3 ADHD の理解と対応 | 11 言語障害の理解と対応 |
| 4 自閉症の理解と対応 | 12 視覚障害の理解と対応 |
| 5 アスペルガー症候群の理解と対応 | 13 聴覚障害の理解と対応 |
| 6 障害児を持つ家族への支援 | 14 てんかんの理解と対応 |
| 7 学習障害 (LD) の理解と対応 | 15 定期テスト まとめ |
| 8 ダウン症の理解と対応 | |

〔テキスト〕 自作プリント (学内ホームページで公開します)

〔参考文献〕 講義の中で、適宜、紹介します。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点 15 点、レポート 70 点、定期テスト 15 点

26129

①養護内容

W 鈴木壽恵

養護内容

⑩養護内容

〔授業題目〕 基本的援助観の構築

〔概要〕 主として居住型の児童福祉施設で生活している子ども達の日常の暮らしを知り、児童観や施設養護観を養う。また入所児やその家族等に関わる保育士の業務および援助・支援のあり方を習得する。

〔到達目標〕 居住型児童福祉施設において、日常的に展開される子ども達の生活と職員の援助課題と援助のあり方等を演習をとおして習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 オリエンテーション① ～演習授業の進め方～ | 8 処遇困難児童への対応 |
| 2 オリエンテーション② ～関連授業のフィードバック～ | 9 児童養護に関わる援助者 (保育士・児童指導員など) <その2> 学習指導 |
| 3 家庭養護と社会的養護 | 10 児童養護に関わる援助者 (保育士・児童指導員など) <その3> 余暇活動 |
| 4 児童養護の動向 | 11 児童養護に関わる援助者 (保育士・児童指導員など) <その4> ところの援助 |
| 5 社会的養護サービスの現状 | 12 施設養護における生活プログラム作成 |
| 6 居住型児童福祉施設における基本的な養護援助 | 13 自立に向けての援助プログラム作成 |
| 7 児童養護に関わる援助者 (保育士・児童指導員など) <その1> 日常生活援助 | 14 親子関係の調整 保育士の役割 |
| | 15 一より良い処遇をするために一 |

〔テキスト〕 福祉小六法編集委員会編、『保育福祉小六法 2008 年度版』、(株)みらい

〔参考文献〕

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 課題レポート 40 %、提出物 (グループレポート含む) 20 %、発表 20 %、平常点 20 %

26130

①音楽Ⅰ

S 荒木 環 西田悦子 文 貴美 李 智恵

音楽ⅠA

⑩音楽ⅠA

〔授業題目〕リズム・メロディー・ハーモニーの基礎

〔概要〕グループ形態での指導とマンツーマン形態での授業をⅠコマの中で併せ行う中で、グループでは音楽理論や歌唱、伴奏法の講義・演習を、マンツーマンではきめ細かくピアノの演奏技術指導を受ける。

〔到達目標〕基礎的な音楽能力を得て、音楽を通して自己を表現することの楽しさを知り、個人個人の音楽に対する感性を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------|--|
| 1 オリエンテーションクラス分けテスト | の伴奏・変奏 |
| 2 楽典（楽譜・音名）リズム模奏・あそびうたの伴奏 | 10 楽典（音程Ⅱ）楽典（調号2個までの様々な調）の伴奏・変奏 |
| 3 楽典（音符・休符）リズム模奏・あそびうたの伴奏 | 11 楽典（和音楽典（調号3個までの様々な調）の伴奏・変奏 |
| 4 マスターチェックテスト | 12 マスターチェックテスト |
| 5 楽典（拍子）音楽リズム・ハ長調の楽曲の伴奏付け | 13 楽典（コードネーム）楽典（調号1個までの様々な調）のコード付け |
| 6 楽典（長音階）音楽リズム・ハ長調の楽曲の伴奏付け | 14 楽典（コード進行）楽典（調号1個までの様々な調）のコード付け |
| 7 楽典（短音階）音楽リズム・ハ短調の楽曲の伴奏付け | 15 定期テストとその批評 |
| 8 マスターチェックテスト | 備考 ピアノ個人レッスンにおいては各学年の進度に応じた指導 初心者においてはバイエル |
| 9 楽典（音程Ⅰ）楽典（調号1個までの様々な調） | 66番終了を目標とする |

〔テキスト〕（ピアノ）進度別に使用するピアノのテキストとして「バイエル教則本」・「ブルグミュラー 25 練習曲」・「ソナチネアルバム 1・2」・「ソナタアルバム 1・2」など（全音）（声楽）小林美実編著「続こどものうた 200」（チャイルド本社）楽典・伴奏付け等は授業のなかで自作プリント配布

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常点 30 %

26141

①音楽Ⅱ

W 荒木 環 西田悦子 文 貴美 李 智恵

音楽ⅡB

⑩音楽ⅡB

〔授業題目〕リズム・メロディー・ハーモニーの基礎

〔概要〕グループ形態での指導とマンツーマン形態での授業をⅠコマの中で併せ行う中で、グループでは音楽理論や歌唱、伴奏法の講義・演習を、マンツーマンではきめ細かくピアノの演奏技術指導を受ける。

〔到達目標〕基礎的な音楽能力を得て、音楽を通して自己を表現することの楽しさを知り、個人個人の音楽に対する感性を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1 クラス分けテスト 4 | 10 ソルフェージュこどものうた（季節 春～夏より）歌唱 |
| 2 呼吸法・発声法音楽発表会合唱練習 | 11 ソルフェージュこどものうた（季節 秋～冬より）歌唱 |
| 3 呼吸法・発声法音楽発表会合唱練習 | 12 マスターチェックテスト |
| 4 マスターチェックテスト | 13 ソルフェージュこどものうた（季節 秋～冬より）歌唱 |
| 5 こどものうた（園生活より）歌唱音楽発表会合唱練習 | 14 ソルフェージュこどものうた歌唱 |
| 6 こどものうた（行事より）歌唱音楽発表会合唱練習 | 15 定期テストとその批評 |
| 7 こどものうた（行事より）歌唱音楽発表会合唱練習 | 備考 ピアノ個人レッスンにおいては各学年の進度に応じた指導 初心者においてはバイエル |
| 8 音楽発表会 | 66番終了を目標とする |
| 9 ソルフェージュこどものうた（季節 春～夏より）歌唱 | |

〔テキスト〕（ピアノ）進度別に使用するピアノのテキストとして「バイエル教則本」・「ブルグミュラー 25 練習曲」・「ソナチネアルバム 1・2」・「ソナタアルバム 1・2」など（全音）（声楽）小林美実編著「こどものうた 200」（チャイルド本社）ソルフェージュは授業の中でコピー配布

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常点 30 %

26144

①図画工作 I

W 村田夕紀

図画工作 I

⑩図画工作 I

〔授業題目〕造形活動における基本と応用

〔概要〕子どもが楽しんで素材や環境と関わり、多様な造形表現活動を行うことに理解と共感を深める。また、保育実践に必要な材料、用具などについて理解し、扱い方に習熟して、保育場面における子どもの活動に即した援助、指導力を身につける。

〔到達目標〕造形表現活動に取り組む上で、保育者として知っておくべき基礎的な知識や技能を身につける。

〔授業計画〕

- | | | |
|-----------------------|----------------|------------|
| 1 造形表現のねらいと内容
(講義) | 6 音楽発表会・招待状づくり | 12 表現技法 |
| 2 紙製作の基本 | 7 音楽発表会・看板づくり | 13 表現技法 |
| 3 音楽発表会・壁面装飾 | 8 版画表現 | 14 表現技法 |
| 4 音楽発表会・壁面装飾 | 9 版画表現 | 15 幼児の造形活動 |
| 5 音楽発表会・招待状づくり | 10 表現技法 | |
| | 11 表現技法 | |

〔テキスト〕花篤 實・岡田愨吾 編著、『造形表現 実技編』、三晃書房

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕提出物 70 %、授業態度 30 %

26146

①小児体育 I

S 奥野孝昭

小児体育 I

⑩小児体育 I

〔授業題目〕運動あそびの体験と発表

〔概要〕保育指導に必要な運動遊びの方法を学習するとともに、その指導に必要な運動技能を身につけ、幼児が明るく元気に生活できるよう援助・指導する技能を習得する。

〔到達目標〕保育指導に必要な運動遊びの方法を理解し、その指導に必要な運動技能を身につけることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|------------------|
| 1 1 運動あそび指導の基礎技法① ～遊びを醸し出す技術～ | プ・なわ・ボール等～ |
| 2 2 運動あそび指導の基礎技法② ～遊びを醸し出す技術～ | 7 伝承あそび① |
| 3 器具を利用した運動あそび① ～跳箱・マット・鉄棒・平均台等～ | 8 伝承あそび② |
| 4 器具を利用した運動あそび② ～跳箱・マット・鉄棒・平均台等～ | 9 創作体操 (ダンス) ① |
| 5 手具やボールを使った運動あそび① ～フープ・なわ・ボール等～ | 10 創作体操 (ダンス) ② |
| 6 手具やボールを使った運動あそび② ～フープ・なわ・ボール等～ | 11 チャレンジ・ザ・ゲーム |
| | 12 レクリエーションスポーツ① |
| | 13 レクリエーションスポーツ② |
| | 14 水あそび |
| | 15 定期試験およびまとめ |

〔テキスト〕前橋明著『0～5歳児の運動あそび指導百科』(ひかりのくに)

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、実技テスト及び平常点 50 %

26147

①小児体育Ⅱ

W 奥野孝昭

小児体育Ⅱ

⑩小児体育Ⅱ

〔授業題目〕 運動あそびの研究と実践

〔概要〕 小児体育Ⅰで習得した技能を踏まえ、実際に指導計画をたてて「模擬保育」を実践する。年齢を考慮しながら、子どもの興味・関心に沿って指導する実践力を養う。

〔到達目標〕 模擬保育の実践を行い、子どもの興味・関心に沿って指導する実践力を養うことを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1 運動あそび指導の基礎技法 ～遊びを醸し出す技術～ | 8 「模擬保育」実践⑥ |
| 2 模擬保育指導案作成 | 9 「模擬保育」実践⑦ |
| 3 「模擬保育」実践① | 10 「模擬保育」まとめ |
| 4 「模擬保育」実践② | 11 年代・障害別支援法① |
| 5 「模擬保育」実践③ | 12 年代・障害別支援法② |
| 6 「模擬保育」実践④ | 13 年代・障害別支援法③ |
| 7 「模擬保育」実践⑤ | 14 総括 |
| | 15 定期試験およびまとめ |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 「0～5歳児の運動あそび指導百科」（「小児体育Ⅰ」のテキスト）

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、実技テストおよび平常点 50%

26149

①福祉ボランティア活動（編入生）

S 立岡 浩

福祉ボランティア活動

⑩福祉ボランティア活動

〔授業題目〕 ボランティア活動を理解する。

〔概要〕 ボランティア活動の特質・意義・歴史的背景等の学問的考察と保育所・児童擁護施設・障害児施設等での事例を取り上げながら、ボランティア活動のあり方の理解を深めていく。

〔到達目標〕 児童福祉分野におけるボランティアの役割を理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| 第1回 オリエンテーションー 講義の進め方、目標についてー | 第9回 ボランティア学習の意義と関連施策 |
| 第2回 ボランティアリズムについて | 第10回 ボランティア学習の現状と課題 |
| 第3回 ボランティア活動の概念 | 第11回 ボランティア活動の実践のための準備 |
| 第4回 ボランティア活動の歴史 | 第12回 保育所におけるボランティア活動の実際 |
| 第5回 NPO法人とボランティア団体の概要 | 第13回 児童養護施設におけるボランティア活動の実際 |
| 第6回 NPO・NGOによるさまざまな活動 | 第14回 障害児施設におけるボランティア活動の実際 |
| 第7回 ボランティア活動の振興策 | 第15回 全体総括 |
| 第8回 ボランティア・コーディネーターについて | |

〔テキスト〕 1) 岡本栄一監修、守本友美・河内昌彦・立石宏昭編（2005）『ボランティアのすすめ』ミネルヴァ書房。

〔参考文献〕 1) 大阪ボランティア協会編（2004）『ボランティア・NPO用語辞典』中央法規出版。2) ボランティア白書2009編集委員会編（2009）『ボランティア白書2009～今後の地域福祉とボランティア～』（社）日本青年奉仕協会。※その他随時紹介。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 期末レポート60%、小テスト10%、授業毎ミニレポート10%、発表・討論等の平常点20%。

26150

㉑子育て支援実地研究（編入生）

S

安部行照 長谷範子

㊸子育て支援実地研究A

〔授業科目〕 地域子育て支援の実際を知る

〔概要〕 地域子育て支援の現場に赴き、子育て支援にかかわる問題を捉え、その中から自ら課題を設定して分析・検討を行うとともに、その課題について、児童や保護者を援助するための技術・方法を考察する。

〔到達目標〕 <目標> A 地域子育て支援事業の概要と現状を理解し、その中から課題を捉え、分析・検討を行う。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1 はじめに一地域子育て支援事業の概要 | 9 地域子育て支援センターにおける支援の現状と課題（2）一事例検討 |
| 2 現代の地域における子育ての様相 | 10 地域子育て支援センターにおける支援の現状と課題（3）一事例検討 |
| 3 地域子育て支援事業の現状（1） | 11 地域における子育てニーズに応じた支援の実際（1）一グループ発表 |
| 4 地域子育て支援事業の現状（2） | 12 地域における子育てニーズに応じた支援の実際（2）一グループ発表 |
| 5 地域子育て支援センターにおける支援の実際（1） | 13 地域における子育てニーズに応じた支援の実際（3）一グループ発表 |
| 6 地域子育て支援センターにおける支援の実際（2） | 14 地域子育て支援の方向性 |
| 7 地域子育て支援センターにおける支援の実際（3） | 15 まとめ |
| 8 地域子育て支援センターにおける支援の現状と課題（1）一事例検討 | |

〔テキスト〕 授業時に指示。

〔参考文献〕 適宜指示。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 討議、演習、実習態度および個別研究レポートによる。

26162

㉑保育レクリエーション活動援助法（編入生）W

奥野孝昭

保育レクリエーション活動援助法

㊸保育レクリエーション活動援助法

〔授業科目〕 レクリエーション活動の実践

〔概要〕 小児体育Iで学習したことを生かし、レクリエーション活動援助能力が養われるように、スポーツ以外の幅広いレクリエーション活動を学習し、援助計画を立て実践する力を養う。

〔到達目標〕 レクリエーションインストラクターになるための必要な技術を体験的に学習し修得することを目標とする

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 レクリエーションの基礎理論① | 9 対象にあわせたレクリエーションワーク① |
| 2 レクリエーションの基礎理論② | 10 対象にあわせたレクリエーションワーク② |
| 3 アイスブレイキング① | 11 支援実習① |
| 4 アイスブレイキング② | 12 支援実習② |
| 5 ホスピタリティトレーニング① | 13 支援実習③ |
| 6 ホスピタリティトレーニング② | 14 支援実習④ |
| 7 目的にあわせたレクリエーションワーク① | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 目的にあわせたレクリエーションワーク② | |

〔テキスト〕 浅野祥三他監修『「レクリエーション支援の基礎」～楽しさ、心地よさを活かす理論と技術～』（財）日本レクリエーション協会

〔参考文献〕 講義の際適宜紹介する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、実技テストおよび平常点 50%

26167

②保育実習Ⅰ（施設）（編入生）

S・W 長谷範子

②保育実習Ⅰ（保育所）（編入生）

②保育実習指導（施設・保育所）（編入生）

保育実習Ⅰ

⑩保育実習Ⅰ

〔授業題目〕 児童福祉施設の実際を知り、学ぶ。

〔概要・到達目標〕 保育実習指導（施設・保育所）（保育実習）…既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。また、保育士としての職業倫理と、子どもの最善の利益の具体化について考察、学生が専門職としてふさわしい姿、行動がとれるよう「個別指導」の方針を徹底する。保育実習Ⅰ（施設）（保育実習）…児童福祉施設での実際の生活を、直接体験を通じて理解し、子どものニーズの把握の方法、他の職員との役割分担、保護者・地域との連携、職業倫理等について学ぶ。保育実習Ⅰ（保育所）（保育実習）…保育所での実際の生活を、直接体験を通じ理解し、保育所の機能、他の職員との役割分担、保護者・地域との連携、職業倫理等について学ぶ。

〔授業計画〕

- | | |
|---|--|
| 1 オリエンテーション保育士養成における実習の位置づけ保育所以外の児童福祉施設実習の意義・目的 | 実習の計画・進め方 |
| 2 施設実習の割り当てと事前の手続きについて事前学習の進め方 | 15 乳幼児のあそびとその実践 |
| 3 実習オリエンテーションについて実習生としての心構え1 | 16 オリエンテーション保育所実習の意義・目的
2実習性としての心構え3 |
| 4 児童福祉施設の種類・役割児童福祉施設の現状と保育士の役割 | 17 保育計画と指導計画日誌・指導計画案の書き方 |
| 5 施設実習計画書について一作成の視点 | 18 グループ別部分実習の実践と評価1 |
| 6 施設実習事前学習事項のシェアリング | 19 グループ別部分実習の実践と評価2 |
| 7 実習の記録一実習日誌の書き方オリエンテーション依頼とその報告について | 20 グループ別部分実習の実践と評価3 |
| 8 実習生としての心構え2乳幼児・児童のあそび | 21 グループ別部分実習の実践と評価4 |
| 9 施設実習のまとめ1一実習体験のシェアリング | 22 グループ別部分実習の実践と評価5 |
| 10 施設実習のまとめ2一自己評価およびまとめ | 23 グループ別部分実習の実践と評価6 |
| 11 保育所実習の意義・目的1 | 24 保育所実習の配属と事前の手続きについてオリエンテーション依頼とその報告について |
| 12 保育ニーズと保育所における子育て支援 | 25 グループ別部分実習の実践と評価7 |
| 13 保育所保育指針・保育士倫理綱領 | 26 グループ別部分実習の実践と評価8 |
| 14 乳幼児の発達援助と環境設定グループ別部分 | 27 保育所実習計画書について一作成の視点 |
| | 28 保育所実習事前学習事項のシェアリング |
| | 29 実習生としての心構え4乳幼児のあそび一まとめ |
| | 30 保育所実習のまとめ一自己評価およびまとめ |

〔テキスト〕 適宜指示する。

〔参考文献〕 森上史朗 最新保育資料2009 他、必要に応じ授業にて紹介する。

〔授業形態〕 実習

〔成績評価の方法〕 実習先の評価40%、レポート実習日誌等提出物30%、平常点30%

26301

社会福祉原論Ⅰ

S 近藤祐昭

⑩社会福祉原論Ⅰ

〔授業題目〕社会福祉の意義と役割

〔概要〕社会福祉を学習する上で、最も基礎となる主要概念を整理し、社会福祉概念の歴史的意義について理解を深める。歴史的、社会的な社会福祉の構造的把握を前提とし、社会福祉の主体と客体、社会福祉サービス体系と法制度、専門性と倫理ならびに国際社会の動向について論じ、社会福祉構造改革と課題を考える。

〔到達目標〕人間生活の中で、社会福祉が果たす役割と意義について理解を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1 社会福祉の常識と認識 | 8 社会福祉の理念と自立支援 |
| 2 社会福祉の社会科学的視座 | 9 公私社会福祉の役割と機能 |
| 3 社会福祉の前近代性と近代性
日本の社会福祉風土と特性 | 10 社会福祉制度の発達と関係法 |
| 4 慈善・救済・社会事業・社会福祉
社会保障と福祉国家 | 11 社会福祉行政と財政負担 |
| 5 福祉国家と福祉社会の理念 | 12 社会福祉行政における中央と地方 |
| 6 社会福祉の対象認識と援助形態・方法 | 13 社会福祉の専門性と国際社会福祉の動向 |
| 7 社会福祉の主体と客体 | 14 社会福祉実践の価値と倫理 |
| | 15 定期試験、まとめ |

〔テキスト〕『新版・社会福祉学双書』編集委員会編、社会福祉概論、全国社会福祉協議会出版部

〔参考文献〕適宜プリントを配布する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、平常点 20 %

26302

社会福祉原論Ⅱ

W 近藤祐昭

⑩社会福祉原論Ⅱ

〔授業題目〕社会福祉の意義と役割

〔概要〕保健・医療など関連分野との連携のあり方も含めて社会福祉サービス体系化と援助形態・方法・領域について正しい認識を与え、専門性としてのソーシャルワーカーの任務と役割、資格法の意義と内容、ならびに社会福祉援助活動と倫理、活動目標や達成課題等について学習させる。

〔到達目標〕人間生活の中で、社会福祉が果たす役割と意義について理解を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 施設福祉サービスと在宅福祉サービス | 9 福祉多元主義とNGO、NPO |
| 2 社会福祉法と関係法制 | 10 社会福祉改革と人材 |
| 3 社会福祉関係の職種と内容 | 11 専門職資格と専門性教育 |
| 4 社会福祉と保健・医療 | 12 戦後日本の社会福祉教育の到達点 |
| 5 社会変動と社会福祉活動 | 13 社会福祉の国際性・学際性・科学性 |
| 6 地域福祉組織化と社会福祉協議会活動 | 14 社会福祉学理論の構築と展望 |
| 7 民生委員・児童委員活動 | 15 定期試験、まとめ |
| 8 ボランティア活動の意義と役割 | |

〔テキスト〕『新版・社会福祉学双書』編集委員会編、社会福祉概論、全国社会福祉協議会出版部

〔参考文献〕適宜プリントを配布する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、平常点 20 %

26305

社会福祉援助技術論Ⅰ

S 原 順子

⑩社会福祉援助技術論Ⅰ

〔概要〕 社会福祉サービスと専門援助活動の関係や援助活動の目的・価値・原則について、個別援助技術（ケースワーク）を通して学ぶ。また、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論や様々な実践モデルについて学ぶ。

〔到達目標〕 社会福祉サービスと専門援助活動の関係及び基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解できる。人権尊重、権利擁護、自立支援等や、社会福祉援助技術に由来する倫理について理解し、社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則・等について考察できる。また、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論や様々な実践モデルについて理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 社会福祉サービスと援助活動の関係 | 10 人と環境の相互作用：システム理論 |
| 2 福祉専門職と専門援助技術の関係 | 11 様々な実践モデルとアプローチ：治療モデル、生活モデル |
| 3 社会福祉援助活動の場と専門援助技術（相談援助の対象の概念と範囲を含む） | 12 様々な実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ |
| 4 専門援助技術の体系及び内容＜個別援助技術（ケースワーク）＞ | 13 様々な実践モデルとアプローチ：ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ |
| 5 社会福祉援助活動の目的・価値・原則（人権尊重、権利擁護、自立支援等を含む） | 14 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向、相談援助の実際（権利擁護活動を含む） |
| 6 面接（インテーク）と事前評価（アセスメント） | 15 定期試験 |
| 7 援助計画の作成 | |
| 8 援助活動の実施と評価 | |
| 9 専門援助技術の歴史的展開 | |

〔テキスト〕 開講時に指示する

〔参考文献〕 講義時に紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 75 %、平常点 25 %

26306

社会福祉援助技術論Ⅱ

W 原 順子

⑩社会福祉援助技術論Ⅱ

〔概要〕 社会福祉サービスと専門援助活動の関係や援助活動の目的・価値・原則について、集団援助技術（グループワーク）を通して学ぶ。また、社会福祉援助活動の共通課題（記録・評価・IT活用など）や倫理について学ぶ。

〔到達目標〕 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえ、集団援助技術の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則・倫理等について理解できる。また、相談援助における事例分析の意義や方法、および相談援助の実際について理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 集団を活用した相談援助の意義、目的 | 保護の意義 |
| 2 集団を活用した相談援助の方法、留意点 | 9 専門援助技術と倫理：相談援助と個人情報の保護の留意点 |
| 3 集団を活用した相談援助（グループダイナミックス） | 10 専門援助技術の統合化とチームによる対応 |
| 4 集団を活用した相談援助（自助グループなど） | 11 相談援助における情報通信技術（IT）の活用
の意義と留意点 |
| 5 社会福祉援助活動の共通課題（記録の意義、目的、方法、留意点） | 12 相談援助における情報通信技術（IT）を活用
した支援の概要 |
| 6 社会福祉援助活動の共通課題（評価の意義、目的、方法、留意点） | 13 事例分析（意義、目的、方法、留意点） |
| 7 専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義、目的、留意点、方法 | 14 相談援助の実際（権利擁護活動を含む） |
| 8 専門援助技術と倫理：相談援助と個人情報の | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 開講時に指示する

〔参考文献〕 講義時に紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 75 %、平常点 25 %

26308

社会福祉援助技術演習Ⅱ

W 上續宏道 信田光子

㊦社会福祉援助技術演習Ⅱ

〔授業題目〕 援助技術の活用能力・態度の育成

〔概要〕 社会福祉援助技術に関する講義等と関連させながら、福祉の利用者の具体的な事例を取りあげて、社会福祉援助技術を考察することができるよう、演習形式により学習を進める。

〔到達目標〕 学生の個別及び集団指導を通じて、専門的な援助技術の基礎となる知識と技術を、様々な場面で実際に活用できる能力と態度を育てる。

〔授業計画〕

- | | | |
|--------------------------------|---------------|-----------------------------|
| 1～2グループによる事例研究 | ④身体障害（児）者への援助 | 7～9現場実習期間中 |
| 3～5現場実習に向けての具体的な課題設定（発表及び個別指導） | | 10～12実習後の問題点の整理（専門的援助技術の考察） |
| 6 実習記録のまとめ方（ディスカッション形式） | | 13 実習先評価をふまえての問題点の整理 |
| | | 14～15評価とまとめ |

〔テキスト〕 プリント等適宜配布。

〔参考文献〕 適宜必要に応じて紹介。

〔授業形態〕 演習・発表・グループでの討論、ロールプレイ、事例研究など

〔成績評価の方法〕 レポート（課題提出を含む）60%、受講態度など平常点40%

26309

社会福祉援助技術A

S 上續宏道 信田光子

㊦社会福祉援助技術A

〔授業題目〕 社会福祉援助技術を学ぶ その1

〔概要〕 保育実践に必要な社会福祉援助技術の概要と歴史を理解するとともに、実技指導を中心とする演習形態によって社会福祉援助技術の方法及び内容を身につける。また、人権の尊重、秘密保持等、援助の基本姿勢についても理解する。また、コミュニティーワークやケアマネジメントなど、社会福祉の専門的援助技術の考察、習得に努め、様々な場面で総合的な視野から対応できる能力と主体的に行動する態度を習得する。

〔到達目標〕 ケースワークやグループワークなど、社会福祉の専門的援助技術の考察、習得に努め、様々な場面で総合的な視野から対応できる能力と主体的に行動する態度を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 社会福祉と社会福祉援助技術との関連 | 9 個別援助技術の原則 |
| 2 保育と社会福祉援助技術 | 10 個別援助技術の展開過程 |
| 3 社会福祉援助技術の意義 | 11 保育場面と個別援助技術の実際 |
| 4 社会福祉援助技術の原理 | 12 集団援助技術（グループワーク）の意義と機能 |
| 5 社会福祉援助技術の専門性と倫理① | 13 集団援助技術の展開過程 |
| 6 社会福祉援助技術の専門性と倫理② | 14 保育場面と集団援助技術の実際 |
| 7 社会福祉援助技術の発展過程 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 個別援助技術（ケースワーク）の意義と機能 | |

〔テキスト〕 プリント配布

〔参考文献〕 横井一之・吉弘淳一編著『保育ソーシャルカウンセリング』（建帛社）

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験70%、平常点30%

26310

社会福祉援助技術B

W 上續宏道 信田光子

㊦社会福祉援助技術B

〔授業題目〕社会福祉援助技術を学ぶ その2

〔概要〕保育実践に必要な社会福祉援助技術の概要と歴史を理解するとともに、実技指導を中心とする演習形態によって社会福祉援助技術の方法及び内容を身につける。また、人権の尊重、秘密保持等、援助の基本姿勢についても理解する。また、コミュニティーワークやケアマネジメントなど、社会福祉の専門的援助技術の考察、習得に努め、様々な場面で総合的な視野から対応できる能力と主体的に行動する態度を習得する。

〔到達目標〕コミュニティーワークやケアマネジメントなど、社会福祉の専門的援助技術の考察、習得に努め、様々な場面で総合的な視野から対応できる能力と主体的に行動する態度を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------|----------------------------------|
| 1 地域援助技術（コミュニティーワーク）の意義と機能 | 9 障害をもつ子どもと家族へのアプローチ |
| 2 地域援助技術の展開過程 | 10 母親へのアプローチ |
| 3 ケアマネジメント | 11 父親へのアプローチ |
| 4 気付きの演習——自分で感じ、考えること | 12 虐待ケースへの対応 |
| 5 信頼されるためのコミュニケーション技術 | 13 保育所における子ども・家族へのアプローチ |
| 6 他機関・他施設とのより良い連携 | 14 保育所以外の児童福祉施設における子ども・家族へのアプローチ |
| 7 援助効果の測定 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 家族へのアプローチ | |

〔テキスト〕プリント配布

〔参考文献〕横井一之・吉弘淳一編著『保育ソーシャルカウンセリング』（建帛社）

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常点 30 %

26327

発達心理学Ⅱ

W 茂木 洋

⑩発達心理学Ⅱ

〔授業題目〕生涯発達心理学

〔概要〕発達心理学Ⅰで学んだ基礎的な知識をもとに、胎児期にはじまる子どもの発達を生涯発達の中に位置づけ、発達の障害・子どもの抱える問題への対応等に関する理解を深める。

〔到達目標〕子どもの発達を生涯発達の観点からとらえなおし、長期的な発達支援という視点を身につける。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 生涯発達の視点 | 9 成人期中期の発達の問題と支援 |
| 2 思春期の始まり | 10 成人期後期の発達 |
| 3 青年期の発達 | 11 成人期後期の発達の問題と支援 |
| 4 青年期の発達の問題と支援 | 12 老年期の発達 |
| 5 遷延する青年期 | 13 老年期の発達の問題と支援 |
| 6 成人期前期の発達 | 14 ライフサイクル |
| 7 成人期前期の発達の問題と支援 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 成人期中期の発達 | |

〔テキスト〕適宜プリントを配布する。

〔参考文献〕授業中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 100 %

26341

小児保健実習

S 毛受矩子

⑩小児保健実習

〔授業題目〕子育ての知識と技術を学ぶ

〔概要〕小児保健で習得した知識に基づいて、保育現場で保育士として保健衛生に関する実践が行えるよう実習する。また、病気や事故が発生した時の対応や防止するための健康管理、安全管理の方法等を実習する。

〔到達目標〕小児保健における基礎的知識が理解でき、疾病予防や異常の早期発見ができる力を養う。また小児の日常的な生活場面における保育技術を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|------------------------|
| 1 小児保健実習の意義と実習の心得 | 8 小児の看護（一般看護・疾病に対する看護） |
| 2 小児の健康状態の観察（バイタルサイン） | 9 事故防止と安全教育 |
| 3 小児の精神・運動機能の発達・発育の観察とその評価 | 10 応急処置 |
| 4 小児の身体発育の測定方法と評価 | 11 安楽な体位と緊急時の運搬方法 |
| 5 小児の養護・乳児の抱き方・寝かし方・背負い方・皮膚の清潔など | 12 包帯法（巻軸帯・スピード包帯・三角巾） |
| 6 小児の養護・沐浴・清拭 | 13 乳幼児の救急蘇生法 |
| 7 小児の疾病とその予防対策 | 14 集団保育における健康管理 |
| | 15 定期試験とまとめ |

〔テキスト〕白野幸子著「小児保健実習」医歯薬出版・配布資料

〔参考文献〕適宜指示する。

〔授業形態〕実習

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常点 30 %

26343

小児栄養B

W 柘植美紀子

⑩小児栄養B

〔授業題目〕 保育者として小児に適した食事が提供できることの意義

〔概要〕 小児期の栄養食生活は生涯の健康と生活の基礎となるものであることを理解し、小児期から成人いたる一貫した食生活の意義を学ぶ。また、保育者として小児に適した食事が提供できることの意義を理解する。さらに、乳幼児、病児、病弱児、障害児など子ども達の年齢、身体状況に適した食事を、実際に献立を立てるなどしながら実践的に学ぶ。また、季節感のある食事についても理解を深める。

〔到達目標〕 保育者として子どもの年齢、身体状況に応じた献立を立て、食事を提供できることの意義を理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 幼児期の栄養と食生活 | 8 学校給食 |
| 2 幼児期のお弁当、間食 | 9 学童期・思春期の食教育 |
| 3 演習：幼児期のお弁当「保育園、幼稚園へ持っていくお弁当を作ってみよう」 | 10 演習：食教育媒体「指導目的と内容を考え、適した媒体を選び作ってみよう」 |
| 4 演習：幼児期の間食「3～5歳児のおやつを考えて実際に作ってみよう」 | 11 保育所等の給食 |
| 5 幼児期の食事 | 12 障害をもつ小児の食生活 |
| 6 幼児期の食における問題点 | 13 小児をめぐる問題① |
| 7 学童期・思春期の栄養と食生活 | 14 小児をめぐる問題② |
| | 15 総復習・まとめ |

〔テキスト〕 青木菊麿・小川雄二編著『小児栄養演習』（建帛社）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 レポート 55 %、平常点 45 %

26348

保育内容（健康）

S 奥野孝昭

⑩保育内容（健康）

〔授業題目〕 健康の総合的理解

〔概要〕 子ども自らが「健康で安全な生活を営むための基礎を身につける」ために、こどもの個人差を含めた発育発達への配慮、意欲や態度を育てようとするかかわりについて考察する。

〔到達目標〕 乳幼児期の発達における健康の意義や保育者の役割について総合的に理解することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 保育の基本と保育内容① | 9 保育者の役割① |
| 2 保育の基本と保育内容② | 10 保育者の役割② |
| 3 幼児の発達領域「健康」① | 11 領域「健康」と指導計画① |
| 4 幼児の発達領域「健康」② | 12 領域「健康」と指導計画① |
| 5 領域「健康」と幼児理解① | 13 領域「健康」における指導上の問題点① |
| 6 領域「健康」と幼児理解② | 14 領域「健康」における指導上の問題点② |
| 7 環境と活動の展開① | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 環境と活動の展開② | |

〔テキスト〕 杉原隆+柴崎正行+河邊貴子『保育内容「健康」』（ミネルヴァ書房）

〔参考文献〕 適宜紹介する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 60 %、平常点（レポート点） 40 %

26349

保育内容（人間関係）

S 長谷範子

⑩保育内容（人間関係）

〔授業題目〕 生きる力の基礎としての人間関係力

〔概要〕 新・幼稚園教育要領・保育所保育指針を踏まえながら、子どもが生後直後から幼児期へと発達する過程において展開される人とかかわりが、子どもの人とかかわる力の育成にいかに関与するかについて、発達や学びの連続性の視点から学ぶ。さらに、子どもが人とかかわる力を育てるために、実際の場面において子どもの行動をどのように捉え、保育士にどのような援助が求められるのかについて具体的事例を豊富に提示する中で考察する。

〔到達目標〕 乳幼児期における人とかかわる力の育ちについて理解する。さらに乳幼児の対人行動のとらえ方と、それに基づく援助について学び、考察する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 子どもを取り巻く環境としての「人間関係」 | 9 遊びと人間関係 |
| 2 現代社会の人間関係の特徴 | 10 「人間関係」で気になる子ども |
| 3 領域「人間関係」の考え方 | 11 人とかかわりを育てる保育者の援助（1） |
| 4 生きる力の基礎の形成と道徳性 | 12 人とかかわりを育てる保育者の援助（2） |
| 5 人間関係発達の方向性 | 13 保育者と子どもの人間関係 |
| 6 乳幼児期の自己の発達 | 14 保育者同士・家族・地域の人間関係 |
| 7 乳幼児期の人間関係の特徴 | 15 定期試験とまとめ |
| 8 乳幼児期の人間関係の発達における問題 | |

〔テキスト〕 小田豊・奥野正義 『保育内容 人間関係』（北大路書房）

〔参考文献〕 適宜必要に応じて授業にて紹介する。

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、レポート等 20 %、平常点 10 %

26361

保育内容（言葉）

W 早川勝廣

⑩保育内容（言葉）

〔授業題目〕 子どものことばの育ち

〔概要〕 互いに伝えあう力の形成のプロセスを理解する。保育所や幼稚園での集団生活に適応し、人とかかわる力の育ちの中でことばが豊かに育つ。

〔到達目標〕 領域「言葉」について理解する。子どもの言語発達の過程を見通す。発達に即した「言葉育て」の技術を身につける。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 ことば育ちをどう問うか | 9 物語スキーマと知的発達 |
| 2 子どもはことばをどう獲得するか | 10 イメージ・想像・表現 |
| 3 初期発達の課題 | 11 表現環境と表現意欲 |
| 4 母子関係とコミュニケーション | 12 幼児期から児童期へ |
| 5 対話ことばから語りことばへ | 13 語りから書きことばへ |
| 6 人とかかわる力と語りあう力 | 14 保育者の表現力 |
| 7 絵本との出会い | 15 定期試験とまとめ |
| 8 物語体験と物語づくり | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 プリント配布

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 平常点 30 %、課題 30 %、テスト 40 %

26362

保育内容（表現）

S 村田夕紀

⑩保育内容（表現）

〔授業題目〕 表現活動と子ども理解

〔概要〕 領域「表現」に至る保育内容の変遷について学習し、実際に学びの体験を通して自身の感性と創造性を磨く。遊びの実体験の中で表現する喜びを実感しながら、表現の本質的な意義を理解する。

〔到達目標〕 表現活動を通し、子ども理解を深め、保育者としての資質の向上を目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1 5領域の中の表現 | 9 「お店屋さんごっこ」（製作・身に付けるもの） |
| 2 壁面装飾 | 10 「お店屋さんごっこ」（製作・遊ぶもの） |
| 3 壁面装飾 | 11 子どもがつくり出す総合表現 |
| 4 人形劇（人形・製作） | 12 行事と表現活動 |
| 5 〃 | 13 〃 |
| 6 人形劇（素話の作成） | 14 子ども理解と表現の読み取り |
| 7 人形劇（発表） | 15 まとめ |
| 8 「お店屋さんごっこ」の提案 | |

〔テキスト〕 『保育所保育指針』、フレーベル館

〔参考文献〕 保育とカリキュラム（ひかりのくに）

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 提出物 60 %、平常点 40 %

26363

乳児保育A

S 藤本員子

⑩乳児保育A

〔授業題目〕 乳児保育の理解

〔概要〕 乳児保育の変遷と現状を捉えながら、保育所や乳児院の果す役割、そこでの保育士の役割について理解する。実践においても理論的基盤を明確にしながら、有効な関わり方を具体的に捉えていく。

〔到達目標〕 乳児保育の理論や知識、技術の基本を具体的な事例を通して身につける。更に乳児期の発達を踏まえて保育現場で計画を立案実践していく力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 「乳児保育」とは何か 「乳児保育」の意義、制度と現状 | 8 姿勢と運動の発達ビデオ学習 “赤ちゃんの1年（7か月以降）” |
| 2 乳児保育の歩み | 9 手指の機能、事物の操作の発達と保育 |
| 3 乳児保育の基本 乳児保育の内容（保育所保育指針を読む） | 10 保育園の1日 デイリープログラムを読む |
| 4 胎生期 ビデオ学習 “赤ちゃんこの素晴らしい生命” | 11 0歳児の発達と特徴 0歳児の保育（6か月未満児） |
| 5 発達の見方ととらえ方発達における乳児期の重要性 | 12 0歳児の発達と特徴（6か月～1歳3か月未満児）愛着と自立（愛着行動の発達） |
| 6 反射運動と自発活動、条件反射形成ビデオ学習 “赤ちゃん成長の不思議な道のり” | 13 1歳児の発達と特徴（1歳3か月～2歳未満児）自我の芽生え |
| 7 脳の発達、姿勢と運動の発達ビデオ学習 “赤ちゃんの1年（0～6か月）” | 14 言葉の獲得、認識の力の発達 |
| | 15 定期試験およびまとめ |

〔テキスト〕 待井和江・福岡貞子、『現代の保育学 8 乳児保育』、ミネルヴァ書房

〔参考文献〕 保育所保育指針、ひかりのくに『月刊保育とカリキュラム』『乳児保育総論』保育出版社他

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、実技・レポート提出 20 %、授業態度 10 %

26364

乳児保育B

W 藤本員子

㊦乳児保育B

〔授業題目〕乳児保育の実践

〔概要〕乳児保育実践において、理論的基盤を明確にしなが、有効な関わり方を具体的に捉えていく。さらに乳児期の発達を踏まえて、保育の現場で計画を立案実践していく力を養う。

〔到達目標〕乳児保育の理論や知識、技術の基本を具体的な事例を通して身につける。更に乳児期の発達を踏まえて保育現場で計画を立案実践していく力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 乳児保育の発達の視点（復習）2歳児の発達と特徴 | 援助) |
| 2 2歳児の発達と特徴（続き）DVD2歳児の保育遊びを育む | 9 3歳未満児の保育内容と方法（衣服の着脱、清潔の援助） |
| 3 保育所保育指針第5章 健康と安全3歳未満児の健康と安全① | 10 遊び（保育と遊び）（遊びの実際） |
| 4 3歳未満児の健康と安全② | 11 3歳未満児保育と計画保育所保育指針 第4章 |
| 5 3歳未満児の環境① | 12 種類と作成（指導計画・3歳未満児と行事） |
| 6 3歳未満児の環境②（環境構成図の作成） | 13 立案の実際（保育カリキュラムの実際例）、記録と評価 |
| 7 3歳未満児の保育内容と方法（食事の援助） | 14 3歳未満児保育の課題 |
| 8 3歳未満児の保育内容と方法（排泄、睡眠の | 15 定期試験およびまとめ |

〔テキスト〕待井和江・福岡貞子、『現代の保育学8 乳児保育』、ミネルヴァ書房

〔参考文献〕保育所保育指針、ひかりのくに『月刊保育とカリキュラム』『乳児保育総論』保育出版社他

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験70%、実技・レポート提出20%、授業態度10%

26369

音楽ⅡA

S 荒木 環 西田悦子 文 貴美 李 智恵

㊦音楽ⅡA

〔授業題目〕リズム・メロディー・ハーモニーの応用

〔概要〕子どもという対象を理解したうえで、弾き歌いなどの技能を研鑽し、子どもたちに豊かな音楽教材を提供できる保育者を目指す。

〔到達目標〕IABで習得した知識・技能を総合的に応用し、より適確に幅広く音楽を表現できる力を身につけ、基礎能力の向上を目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1 クラス分けテスト | 節 秋～冬より）弾き歌い続こどものうた（みんなのうたより）歌唱 |
| 2 ソルフエージュ・あそびうたこどものうた（園生活より）弾き歌い続こどものうた（季節より）歌唱 | 8 マスターチェックテスト |
| 3 ソルフエージュ・あそびうたこどものうた（行事より）弾き歌い続こどものうた（季節より）歌唱 | 9 オペレッタ実技演習 |
| 4 マスターチェックテスト | 10 オペレッタ実技演習 |
| 5 ソルフエージュ・あそびうたこどものうた（行事より）弾き歌い続こどものうた（みんなのうたより）歌唱 | 11 オペレッタ実技演習 |
| 6 ソルフエージュ・あそびうたこどものうた（季節 春～夏より）弾き歌い続こどものうた（みんなのうたより）歌唱 | 12 マスターチェックテスト |
| 7 ソルフエージュ・あそびうたこどものうた（季節 秋～冬より）弾き歌い続こどものうた（みんなのうたより）歌唱 | 13 新曲視唱こどものうた（テキスト以外のうた）歌唱 |
| | 14 新曲視唱こどものうた（テキスト以外のうた）歌唱 |
| | 15 定期テストとその批評 |

〔テキスト〕（ピアノ）進度別の使用するピアノのテキストとして「バイエル教則本」・「ブルグミュラー25練習曲」・「ソナチネアルバム1・2」・「ソナタアルバム1・2」など（全音）（声楽）小林美実編著「こどものうた200」・「続こどものうた」（チャイルド本社）ソルフエージュは授業の中でコピー配布

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験70%、平常点30%

26370

音楽Ⅱ B

W 荒木 環 西田悦子 文 貴美 李 智恵

⑩音楽Ⅱ B

〔授業科目〕リズム・メロディー・ハーモニーの応用

〔概要〕子どもという対象を理解したうえで、弾き歌いなどの技能を研鑽し、子どもたちに豊かな音楽教材を提供できる保育者を目指す。

〔到達目標〕I A Bで習得した知識・技能を総合的に応用し、より適確に幅広く音楽を表現できる力を身につけ、基礎能力の向上を目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 クラス分けテスト | き歌い楽曲（様々な調）のコード付け |
| 2 音楽発表会（器楽アンサンブル）グループ分け・選曲 | 11 季節（秋～冬）の手あそび・こどものうた弾き歌い楽曲（様々な調）の新曲視奏 |
| 3 器楽アンサンブル譜 作成 | 12 マスターチェックテスト |
| 4 マスターチェックテスト | 13 動物・乗り物うたあそび・こどものうた弾き歌い楽曲（様々な調）の伴奏・移調 |
| 5 器楽アンサンブル グループ別練習 | 14 じゃんけんあそび・こどものうた弾き歌い楽曲（様々な調）の伴奏・移調 |
| 6 器楽アンサンブル グループ別練習 | 15 定期テストとその批評 |
| 7 器楽アンサンブル全体練習 | 備考 ピアノ個人レッスンにおいては各学年の進度に応じた指導 初心者においてはブルグミュラー終了を目標とする |
| 8 音楽発表会 | |
| 9 乳幼児の手あそび・こどものうた弾き歌い楽曲（様々な調）のコード付け | |
| 10 季節（春～夏）の手あそび・こどものうた弾き歌い楽曲（様々な調）のコード付け | |

〔テキスト〕（ピアノ）進度別の使用するピアノのテキストとして「バイエル教則本」・「ブルグミュラー 25 練習曲」・「ソナチネアルバム 1・2」・「ソナタアルバム 1・2」など（全音）（声楽）小林美実編著「こどものうた 200」・「続こどものうた」（チャイルド本社）ソルフェージュは授業の中でコピー配布

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常点 30 %

26424

人間福祉基礎演習 I

S 鈴木壽恵

⑩人間福祉基礎演習 I

〔授業科目〕社会福祉専門職とは

〔概要〕大学での学び方を中心に展開し、社会福祉士・保育士等の福祉専門職を目指す上での基本姿勢（社会的スキル）や社会福祉を学ぶモチベーションの形成・促進等を学生相互の発表や討論を通じて学ぶ。

〔到達目標〕グループディスカッションや体験学習を通して、卒業後の進路としての社会福祉専門職についての理解と学生としてのライフスタイルの確立をめざす。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション① | 9 高齢者にかかわる仕事② |
| 2 オリエンテーション② | 10 子ども・女性にかかわる仕事① |
| 3 人間福祉とは① | 11 子ども・女性にかかわる仕事② |
| 4 人間福祉とは② | 12 身体障害者にかかわる仕事 |
| 5 社会福祉士とは | 13 精神障害者にかかわる仕事 |
| 6 保育士とは | 14 社会福祉専門職とは |
| 7 精神保健福祉士とは | 15 関連する資格・職種 |
| 8 高齢者にかかわる仕事 | |

〔テキスト〕河村匡由 著 『福祉の仕事ガイドブック』 中央法規、『国民の福祉の動向 2008』 厚生統計協会

〔参考文献〕福祉小六法編集委員会編 「福祉小六法 2008 年版」又は「保育福祉小六法 2008 年版」（株みらい

〔授業形態〕講義・演習・実習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕定期試験にかかわるレポート 60 %、平常点 40 %

26425

人間福祉基礎演習Ⅱ

W 鈴木壽恵

㊤人間福祉基礎演習Ⅱ

〔授業題目〕社会福祉専門職の資質

〔概要〕「社会福祉基礎演習Ⅰ」での学びを踏まえて社会福祉学を演習形式で学習する。学生は日常生活における課題を取り上げて、福祉的解決の必要性に気づき、専門分野の学習の意義について理解する。

〔到達目標〕現在の社会福祉専門職に必要な資質に気づき、人間にかかわる全ての社会福祉分野について学習する必要性を学生相互の発表や討論を通じて学ぶ。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 福祉の現場で求められるものⅣ. 生活について考える |
| 2 福祉の仕事 | 10 福祉の現場で求められるものⅤ. 啓蒙 |
| 3 低所得者にかかわる仕事 | 11 グループ研究Ⅰ |
| 4 行政にかかわる仕事 | 12 グループ研究Ⅱ |
| 5 その他の専門職 | 13 グループ研究Ⅲ |
| 6 福祉の現場で求められるものⅠ. 人権意識 | 14 発表 |
| 7 福祉の現場で求められるものⅡ. 傾聴、共感 | 15 まとめ |
| 8 福祉の現場で求められるものⅢ. 他者への配慮 | |

〔テキスト〕河村匡由著『福祉の仕事ガイドブック』（中央法規）、『国民の福祉の動向2008』（厚生統計協会）

〔参考文献〕福祉小六法編集委員会編「福祉小六法2008年版」又は「保育福祉小六法2008年版」（株みらい）

〔授業形態〕講義・演習・実習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕課題レポート40%、発表40%、平常点20%

26546

㊤子どもの健康管理論

W 毛受矩子

〔授業題目〕集団生活における健康管理

〔概要〕健康の概念を理解し、子どもの日常生活での健康管理の意義について学ぶ。また小児保健で習得した、集団生活場面での感染症や小児の疾病についての知識をさらに深め、緊急時や病児保育のニーズに対応するための知識を習得する。

〔到達目標〕子どもが抱える健康課題について理解し、家庭や保育所等において疾病予防や異常の早期発見ができ、健康の保持増進、健康管理ができる能力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 子どもの健康の意義とヘルスプロポジション | 9 乳幼児期からの健康管理 |
| 2 子どもを取り巻く環境 | 10 学校保健における健康管理 |
| 3 子どもの権利と健康管理 | 11 子どもの健康と基本的生活習慣 |
| 4 子どもの発育と発達 | 12 日常生活上の疾病予防と健康管理 |
| 5 子どもの心理的・社会的な発達 | 13 感染症と子どもの健康管理 |
| 6 子どもの健康生活と事故予防 | 14 健康の保持増進のための地域連携ネットワーク |
| 7 周産期からの健康管理 | 15 定期試験とまとめ |
| 8 新生児期からの健康管理 | |

〔テキスト〕当日配布資料

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験70%、平常点30%

26548

㊤子育て支援実地研究B

W 安部行照 長谷範子

〔授業題目〕地域子育て支援を考える

〔概要〕地域子育て支援の現場に赴き、子育て支援にかかわる問題を捉え、その中から自ら課題を設定して分析・検討を行うとともに、その課題について、乳幼児・児童や保護者を援助するための技術・方法を考察する。

〔到達目標〕B 地域子育て支援事業の概要と現状の理解から捉えた課題を分析・検討し、それに基づいて援助計画を作成、実践する。さらに、これら一連の学びから子育て支援事業について考察する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 はじめに | 9 子育て支援援助計画および子育て支援内容研究 |
| 2 研究テーマの設定および研究のまとめ方 | 10 地域子育て支援実地体験 |
| 3 子育て支援援助計画および子育て支援内容研究 | 11 グループ別研究発表（1） |
| 4 地域子育て支援実地体験 | 12 グループ別研究発表（2） |
| 5 子育て支援援助計画および子育て支援内容研究 | 13 個別研究発表（1） |
| 6 地域子育て支援実地体験 | 14 個別研究発表（2） |
| 7 子育て支援援助計画および子育て支援内容研究 | 15 まとめ |
| 8 地域子育て支援実地体験 | |

〔テキスト〕授業時に指示。

〔参考文献〕適宜指示。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕討議、演習、実習態度および個別研究レポートによる

26549

㊤子育て支援ネットワーク論

S 側垣一也

〔授業題目〕社会的養育の方法を考える

〔概要〕子どもの養育が、親としての責任だけでなく、社会の責任としてどのようなシステムが必要なのか、また、そこに携わる専門家にはどのような資質が求められるのかを、実践方法を通じて考察する

〔到達目標〕さまざまな社会的養育の実践を学び、その中で、現代の子そだての課題を考察し、どのようなシステムが今後必要なのかを検討してゆく

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 オリエンテーション 授業内容・目的 | 9 同上 (Ⅲ) |
| 2 現代の子育ての現状について | 10 同上 (Ⅳ) |
| 3 子育てにおける課題の認識 (Ⅰ) | 11 援助者に求められる専門性 (資質) |
| 4 同上 (Ⅱ) | 12 地域の子そだて支援の現状 (実践例) (Ⅰ) |
| 5 子育て支援のさまざまな方法 (Ⅰ) | 13 同上 (Ⅱ) |
| 6 同上 (Ⅱ) | 14 同上 (Ⅲ) |
| 7 社会的システムを利用した子そだて支援 (Ⅰ) | 15 定期試験とまとめ |
| 8 同上 (Ⅱ) | |

〔テキスト〕特になし

〔参考文献〕適宜紹介

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、平常点 20 %、レポート 20 %

26553

㊤保育カリキュラム総論Ⅰ

S 長谷範子

〔授業題目〕保育課程を考える

〔概要〕保育所保育指針を踏まえつつ、地域の特性や保護者の意向を反映した保育計画から、子ども一人ひとりの個別計画まで、それぞれの課題を計画として具現化、実践へつなぐ力を養う。

〔到達目標〕保育計画の概要について理解し、新保育所保育指針における保育課程の理解を中心に、保育を構成する種々の要素をとらえ、計画化する力を養う。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1 オリエンテーション 保育とは | まで |
| 2 カリキュラムとは | 9 子どもの発達理解と目標の設定 |
| 3 保育における計画 | 10 人とかかわる力の発達と保育者の役割 |
| 4 保育における指導計画のあり方 | 11 保育における環境構成とその視点 |
| 5 改訂保育所保育指針 (平成 21 年度実施) (1) | 12 保育形態と指導計画 |
| 6 改訂保育所保育指針 (平成 21 年度実施) (2) | 13 あそびをとおした総合的指導と計画 |
| 7 改訂幼稚園教育要領 (平成 21 年度実施) | 14 保育者・保護者の連携と協同的指導 |
| 8 指導計画作成の基礎的事項——立案から評価 | 15 定期試験とまとめ |

〔テキスト〕小田豊・神長美津子著 『指導計画法』 北大路書房

〔参考文献〕森上史朗 『最新保育資料集 2009』 (ミネルヴァ書房) その他、適宜必要に応じ授業にて紹介。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、レポート等 20 %、平常点 10 %

26554

㊤保育カリキュラム総論Ⅱ

W 長谷範子

〔授業題目〕保育計画法

〔概要〕保育所保育指針を踏まえつつ、地域の特性や保護者の意向を反映して保育計画から、子ども一人ひとりの個別計画まで、それぞれの課題を計画として具現化、実践へつなぐ力を養う。

〔到達目標〕保育の計画の概要について理解し、子どもの発達のみならず、保育を構成するさまざまな要素をとらえ、計画として具現化する力を養うとともに、実践力の育成を図る。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション 保育と計画 | 9 保育の計画の評価 |
| 2 教材研究と保育の計画 | 10 「保育の計画」研究レポート個別発表 (1) |
| 3 自然環境を活かした保育と計画 | 11 「保育の計画」研究レポート個別発表 (2) |
| 4 地域環境を取り入れた保育と計画 | 12 「保育の計画」研究レポート個別発表 (3) |
| 5 乳児の保育と計画 | 13 「保育の計画」研究レポート個別発表 (4) |
| 6 幼児の保育と計画 | 14 保育の今日的課題と計画 保育士の役割 |
| 7 特別な支援を必要とする子どもの保育と計画 | 15 定期試験とまとめ |
| 8 保育の記録 | |

〔テキスト〕小田豊・神長美津子 「指導計画法」 (北大路書房)

〔参考文献〕森上史朗 「最新保育資料集 2009」 (ミネルヴァ書房) その他、適宜必要に応じ授業にて紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、レポート等 20 %、平常点 10 %

26555

⑩器楽活用法Ⅰ

S 荒木 環 李 智恵

〔授業題目〕ノンバーバルコミュニケーションの向上

〔概要〕ピアノ以外の出来るだけ多くの楽器を実際に使用し、演奏の基本や即興演奏法、楽器同士の組み合わせなどを学び、保育実践に活用する。音楽による人と人とのコミュニケーションを図る科目である。

〔到達目標〕保育現場で必要とされる実践力の育成に重点を置き、具体的な指導力を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 鍵盤ハーモニカ指導法・演奏法 |
| 2 さまざまな楽器の演奏法 | 10 鍵盤ハーモニカ実習 |
| 3 打楽器アンサンブル譜 作成（年少・年中児対象） | 11 ドラムセット演奏法 |
| 4 打楽器アンサンブル 演奏 | 12 ドラムセット実習 |
| 5 打楽器アンサンブル 検討・考察 | 13 鼓隊（マーチング）ビデオ鑑賞・鼓隊指揮法 |
| 6 打楽器アンサンブル譜 作成（年長児対象） | 14 鼓隊譜作成 |
| 7 打楽器アンサンブル演奏 | 15 鼓隊実習器楽活用法Ⅱ |
| 8 打楽器アンサンブル 検討・考察 | 備考 ピアノ個人レッスンを併行する |

〔テキスト〕

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕課題・発表70%、平常点30%

26556

⑩器楽活用法Ⅱ

W 荒木 環 李 智恵

〔授業題目〕ノンバーバルコミュニケーションの向上

〔概要〕ピアノ以外の出来るだけ多くの楽器を実際に使用し、演奏の基本や即興演奏法、楽器同士の組み合わせなどを学び、保育実践に活用する。音楽による人と人とのコミュニケーションを図る科目である。

〔到達目標〕保育現場で必要とされる実践力の育成に重点を置き、具体的な指導力を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 オリエンテーション | 選曲 |
| 2 ラテンアンサンブル譜作成 | 10 器楽アンサンブル譜作成 |
| 3 ラテンアンサンブルパート練習 | 11 器楽アンサンブルパート練習 |
| 4 ラテンアンサンブルパート練習 | 12 器楽アンサンブルパート練習 |
| 5 ラテンアンサンブルパート練習 | 13 器楽アンサンブルパート練習 |
| 6 ラテンアンサンブル演奏 | 14 器楽アンサンブル演奏 |
| 7 P A機材設置操作法 | 15 器楽アンサンブル演奏・検討・考察 |
| 8 P A機材設置操作法 | 備考 ピアノ個人レッスンを併行する |
| 9 器楽アンサンブル（鍵盤楽器を伴う大編成） | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕課題・発表70%、平常点30%

26557

⑩保育実技演習A

W 荒木 環 村田夕紀

〔授業題目〕感性豊かな保育者をめざして

〔概要〕実際の保育現場を想定して、基本技能の造形や音楽等を総合的に研究し、実践力をつける科目である。

〔到達目標〕保育園で行われている生活発表会、クリスマス会等を、実技体験することにより、ゆとりのある輝ける保育者をめざす。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 クリスマスコンサート（選曲・招待状づくり） |
| 2 ハロウィンパーティー（衣装づくり） | 10 クリスマスコンサート（音楽練習） |
| 3 〃 | 11 〃 |
| 4 〃 | 12 クリスマスコンサート（飾り付け） |
| 5 ハロウィンパーティー（音楽練習） | 13 〃 |
| 6 〃 | 14 クリスマスコンサート予行演習 |
| 7 ハロウィンパーティー | 15 クリスマスコンサート |
| 8 ハロウィン音楽発表会 | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕課題・発表50%、平常点50%

26562

㊦保育実習Ⅱ

S 長谷範子

〔授業題目〕責任実習

〔概要〕保育所、及び保育所以外の児童福祉施設の機能、内容、保育士の職務について、実践の場で経験的に理解すると共に既習の理論や技能が実践の場でどのように具体化・統合化されるかについて学ぶ。

〔到達目標〕保育所、及び保育所以外の児童福祉施設において保育・養護を実際に行い実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 1 オリエンテーション 実習Ⅱ、Ⅲの意義と目的 | 8 事前学習事項の発表(1) |
| 2 配属保育所および事前手続きについて 事前学習について | 9 事前学習事項の発表(2) |
| 3 実習オリエンテーションについて1 実習生の心構え1 | 10 実習生の心構え2 乳幼児及び児童の遊び |
| 4 保育所及び保育所以外の児童福祉施設の今日的役割と保育士の役割 | 11 保育実習Ⅱ、Ⅲのまとめ1—実習生としての振り返り |
| 5 実習計画および保育計画(日案)の作成 | 12 保育実習Ⅱ、Ⅲのまとめ2—保育(計画)の振り返り |
| 6 実習計画および保育計画(日案)の検討 | 13 実習における学び |
| 7 実習オリエンテーションについて2 | 14 子どもとのかかわりにおけるエピソード記録 |
| | 15 事前学習から実習—全体を通しての反省と課題 |

〔テキスト〕適宜指示する

〔参考文献〕適宜必要に応じて授業にて紹介。

〔授業形態〕実習

〔成績評価の方法〕実習先の評価40%、レポート・実習日誌等提出物30%、平常点30%

26563

㊦保育実習Ⅲ

S 長谷範子

〔授業題目〕責任実習

〔概要〕保育所、及び保育所以外の児童福祉施設の機能、内容、保育士の職務について、実践の場で経験的に理解すると共に既習の理論や技能が実践の場でどのように具体化・統合化されるかについて学ぶ。

〔到達目標〕保育所、及び保育所以外の児童福祉施設において保育・養護を実際に行い実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 1 オリエンテーション 実習Ⅱ、Ⅲの意義と目的 | 8 事前学習事項の発表(1) |
| 2 配属保育所および事前手続きについて 事前学習について | 9 事前学習事項の発表(2) |
| 3 実習オリエンテーションについて1 実習生の心構え1 | 10 実習生の心構え2 乳幼児及び児童の遊び |
| 4 保育所及び保育所以外の児童福祉施設の今日的役割と保育士の役割 | 11 保育実習Ⅱ、Ⅲのまとめ1—実習生としての振り返り |
| 5 実習計画および保育計画(日案)の作成 | 12 保育実習Ⅱ、Ⅲのまとめ2—保育(計画)の振り返り |
| 6 実習計画および保育計画(日案)の検討 | 13 実習における学び |
| 7 実習オリエンテーションについて2 | 14 子どもとのかかわりにおけるエピソード記録 |
| | 15 事前学習から実習—全体を通しての反省と課題 |

〔テキスト〕適宜指示する

〔参考文献〕適宜必要に応じて授業にて紹介。

〔授業形態〕実習

〔成績評価の方法〕実習先の評価40%、レポート・実習日誌等提出物30%、平常点30%

26567

㊤人間福祉講読演習Ⅱ

W 安部行照 名和月之助

〔授業題目〕社会福祉を和書文献を通して学ぶ

〔概要〕主に次の分野に関わる基本的文献を読む。・福祉思想 ・児童福祉 そのさい、小グループに分かれて、テキストが提起している課題を各方面から探求し、研究の基礎的な力をつけることをめざす。

〔到達目標〕主に和文文献の講読演習を通して、社会福祉の基礎的知識と専門用語を修得し、卒業論文作成の基盤を固めることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|----------|
| 1 全体オリエンテーション | 8 文献講読④ |
| 2 文献講読① | 9 演習④ |
| 3 演習（研究発表・討論など）① | 10 文献講読⑤ |
| 4 文献講読② | 11 演習⑤ |
| 5 演習② | 12 全体演習 |
| 6 文献講読③ | 13 全体演習 |
| 7 演習③ | 14 全体演習 |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕演習

〔成績評価の方法〕定期試験に替わるレポート（50%）、平常の成績（50%）

26570

㊤人間福祉演習Ⅲ

S 鈴木壽恵 安部行照 奥野孝昭

〔授業題目〕個別課題の研究成果をまとめる

〔概要〕人間福祉の各領域に関連する個別研究テーマについての研究活動を行なう。発表および質疑応答の機会を通じて、他者からの感想や意見を自分の研究の深化につなげる。

〔到達目標〕研究テーマについて、多角的に分析し、発表内容についての討論や個別指導を通じて、研究を深化させる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 個別課題の発表と討論、指導 |
| 2 資料・文献収集等の方法 | 10 個別課題の発表と討論、指導 |
| 3 個別ゼミ指導（報告・発表等） | 11 個別課題の発表と討論、指導 |
| 4 個別ゼミ指導（報告・発表等） | 12 個別課題の発表と討論、指導 |
| 5 個別ゼミ指導（報告・発表等） | 13 個別課題の発表と討論、指導 |
| 6 個別ゼミ指導（報告・発表等） | 14 個別課題の発表と討論、指導 |
| 7 個別ゼミ指導（報告・発表等） | 15 中間まとめ |
| 8 個別課題の発表と討論、指導 | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕適宜、授業時に紹介する。プリント資料使用。

〔授業形態〕演習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕レポート・発表50%、平常点・自己評価50%

26571

㊤人間福祉演習Ⅳ

W 鈴木壽恵 安部行照 奥野孝昭

〔授業題目〕 個別課題の研究成果をまとめる

〔概要〕 人間福祉の各領域に関連する個別研究テーマについての研究活動を行なう。発表および質疑応答の機会を通じて、他者からの感想や意見を自分の研究の深化につなげる。

〔到達目標〕 研究テーマについて、多角的に分析し、発表内容についての討論や個別指導を通じて、研究を深化させ、研究成果をまとめる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション 資料・文献収集等の現状報告 | 8 個別指導（卒業研究） |
| 2 研究成果の中間発表・討論・指導 | 9 個別指導（卒業研究） |
| 3 研究成果の中間発表・討論・指導 | 10 研究成果の発表・討論（まとめ） |
| 4 研究成果の中間発表・討論・指導 | 11 研究成果の発表・討論（まとめ） |
| 5 研究成果の中間発表・討論・指導 | 12 研究成果の発表・討論（まとめ） |
| 6 個別指導（卒業研究） | 13 研究成果の発表・討論（まとめ） |
| 7 個別指導（卒業研究） | 14 研究成果の発表・討論 |
| | 15 演習（ゼミ）全体の総括 |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 適宜、授業時に紹介する。プリント資料使用。

〔授業形態〕 演習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕 レポート・発表 50 %、平常点・自己評価 50 %